



その他の関係様式

行政視察結果報告書

行政視察結果報告書

令和 6年7月18日

高島市議会議長
廣本昌久様

会派名 至誠会
会派代表者名 廣部真造

行政視察の結果について（報告）

行政視察の結果について下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間
7月16日
- 2 視 察 先
敦賀市
- 3 視察目的
北陸新幹線敦賀駅の開業後の現状の評価と今後の課題について、高島市の連携の可能性を確認するため、現地の港湾や観光文化施設等を視察する。
ハーモニアスポーツ構想と高島市・滋賀県の連携の可能性について意見交換する。
- 4 調査内容
新幹線開業の伴う観光誘客の予想と現状をどのように評価されているか。また、今後の施策にどのように反映されて行かれるのか。敦賀市と高島市との連携の可能性について協議した。
- 5 参 加 者
廣部真造、河越安実治、中川あゆこ

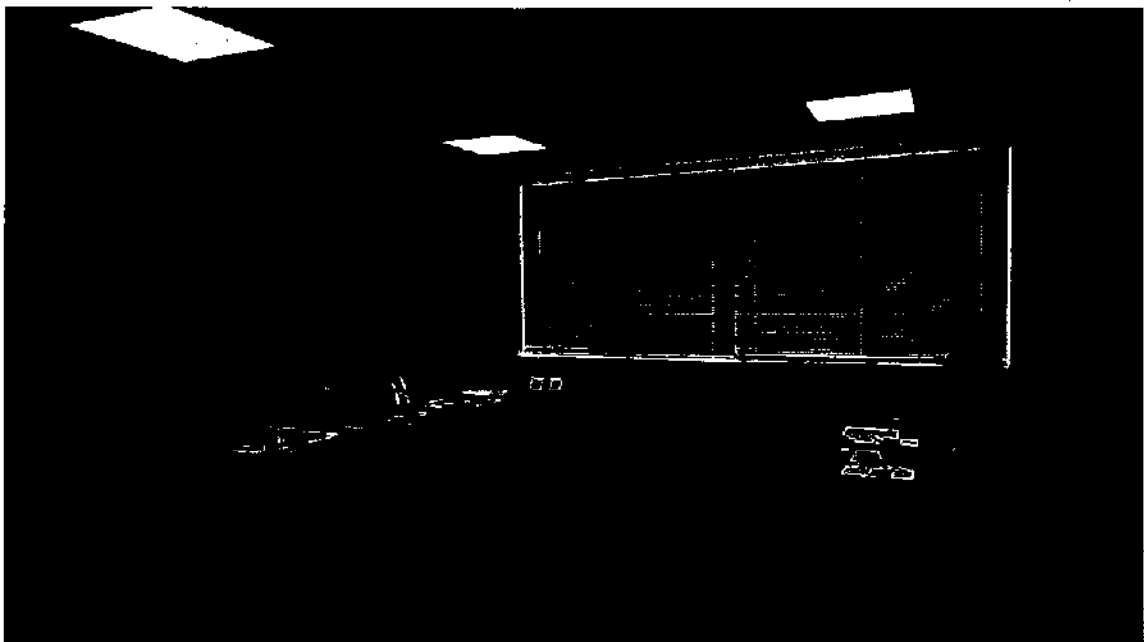
《所感》

北陸新幹線敦賀駅開業から4か月程度が経過して、各観光施設での来訪者の増加は一定評価できる結果となっていた。しかしながら、比較数値がコロナにより観光誘客数が落ち込んでいた時期との比較となるため、もう少し状況を見ていく必要がある。ただし、観光案内所では関東方面からの観光客の割合が増えていることと中部方面から車での来訪者が増加していることが報告された。新駅の開業が話題となり来訪者が増加していることを一過性の物にならないように、アンケート調査を実施予定で、今後の施策に反映されていくとのことであった。高島市内のマキノ駅での観光案内所でも同様に関東方面からの来訪者の案内割合が増加している。このことから、北陸新幹線敦賀駅開業に伴う一定の効果があるものと考ええる。

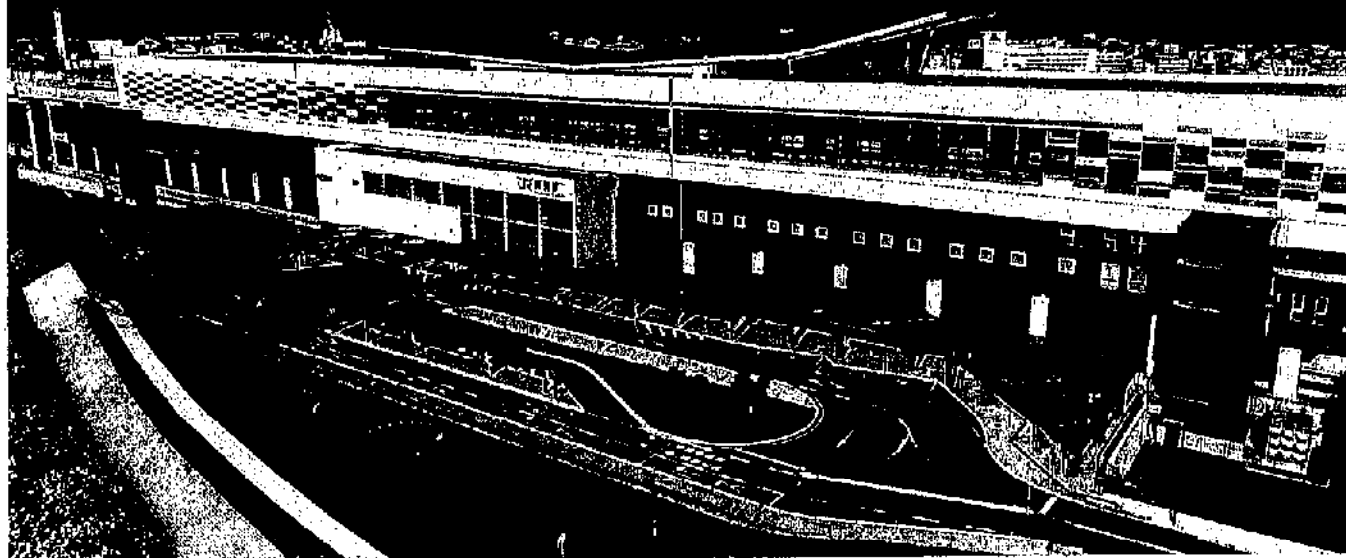
2次交通手段としてレンタル自転車の利用者数が好調であり、更なる利便性の向上のために取り組むとのことであった。ただし、利用者の中には通勤通学での利用者も含まれており、利用実情の分析が必要である。

市内商店街の活性化の取り組みは、非常に参考になるものであった。空き物件の所有者へのアプローチや、利用希望者のマッチングに努力をされており、着実に空き物件の利活用に結びついていた。

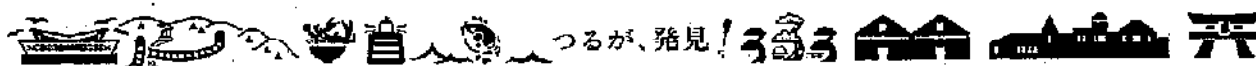
敦賀港を物流の拠点として捉えたときに、高島市内での新たな製造業者が活用できることが期待できる。そのためには、高島市と敦賀市との道路整備の更なる促進が不可欠である。敦賀市と高島市を結ぶ連絡道路の早期実現が、高島市での企業誘致と敦賀市の港湾活用向上に結び付く、ウィン・ウィンの関係になると考える。



新幹線敦賀開業後の 2次交通の充実及び駅周辺の交通円滑化



令和6年7月16日
敦賀市 まちづくり観光部 交通政策課



2次交通の整備状況（シェアサイクル）

① つるがシェアサイクル

<導入時期>

令和2年4月1日から運用開始

<営業時間>

貸出 5:00~24:00

返却 貸出日の23:59まで

※つるがシェアサイクル事務局（オルパーク1階）の営業時間 8:00~19:00（年中無休）



<サイクルポート数>

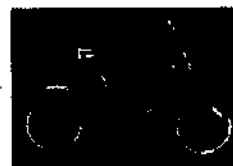
15箇所

- ・令和元年度整備 9箇所（JR敦賀駅ほか中心市街地の観光スポット等）
- ・令和3年度整備 2箇所（気比の松原、日本海さかな街）
- ・令和4年度整備 1箇所（敦賀市庁舎）
- ・令和5年度以降 3箇所（柴田氏庭園、西福寺、総合運動公園）

<自転車台数（電動アシスト）>

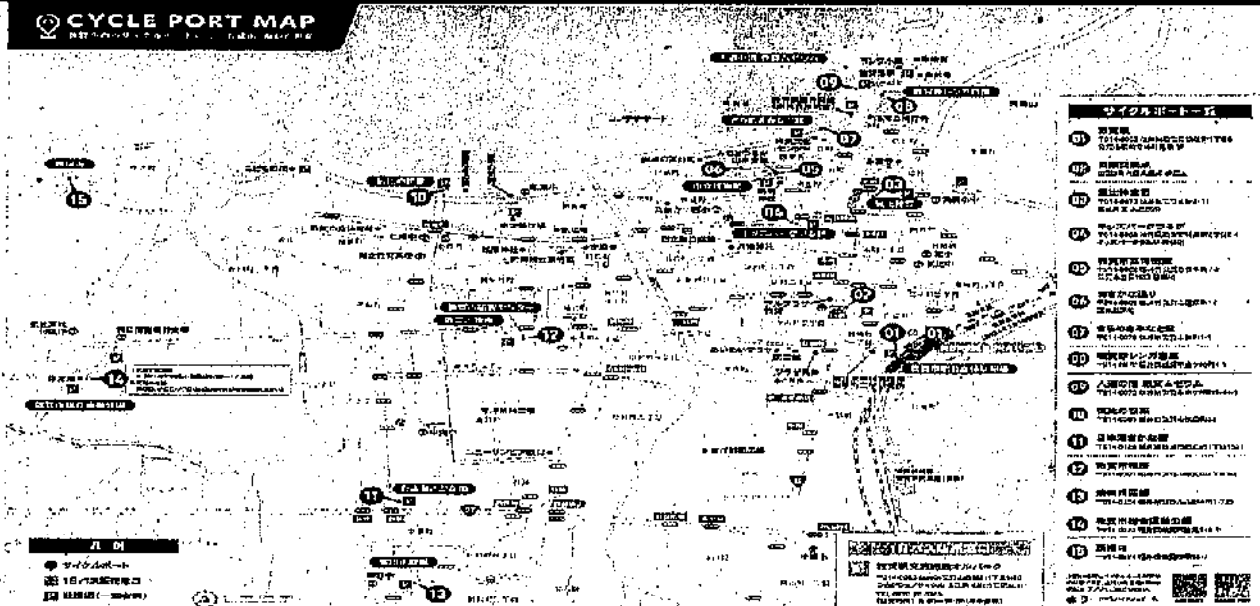
81台

- ・JR敦賀駅（立体駐車場内） 10~20台
- ・それ以外の施設 3~5台



サイクルポートの整備状況（シェアサイクル）

CYCLE PORT MAP



●サイクルポートの構成



駐輪ラック

自転車アタッチメント

看板

電動アシスト自転車

ピーコン

●利用料金

1回会員 220円/回（最初の60分）
※60分超えると30分ごとに110円

月額会員 1,650円/回

シェアサイクルの利用実績

●利用実績

	利用者数（人）	利用回数（回）	1回当たりの 利用時間（分）	1日平均 利用回数（回）
令和2年度	2,992	3,588	171.3	9.8
令和3年度	4,165	5,024	99.9	15.6
令和4年度	5,702	7,555	79.4	20.9
令和5年度	8,470	10,972	70.0	30.0

※ポート増設 令和3年度2箇所 令和4年度1箇所 令和5年度3箇所

	(A) 開業後1ヶ月 (R6.3.16～4.15) (人)	(B) 開業前1ヶ月 (R6.2.16～3.15) (人)	(C) 開業前年同期 (R5.3.16～4.15) (人)	(D) 開業前後1ヶ月 (R6.3/R6.2) 比較 ((A) / (B)) %	(E) 前年同期 (R6.3/R5.3) 比較 ((A) / (C)) %
新幹線開業 後の状況	1,650	801	729	205.99%	226.34%

2次交通の整備状況（市内周遊バス）

② ぐるっと敦賀周遊バス

<導入時期>

平成18年10月21日から運行開始

※JR直流化に合わせて

<運賃>

1日乗車	大人 200円 小人 100円
1日フリー券	大人 500円 小人 250円



<運行ルート>

観光ルート（毎日運行（8便）・土日祝日増（8便）^{*}・平日のみ増（1便））

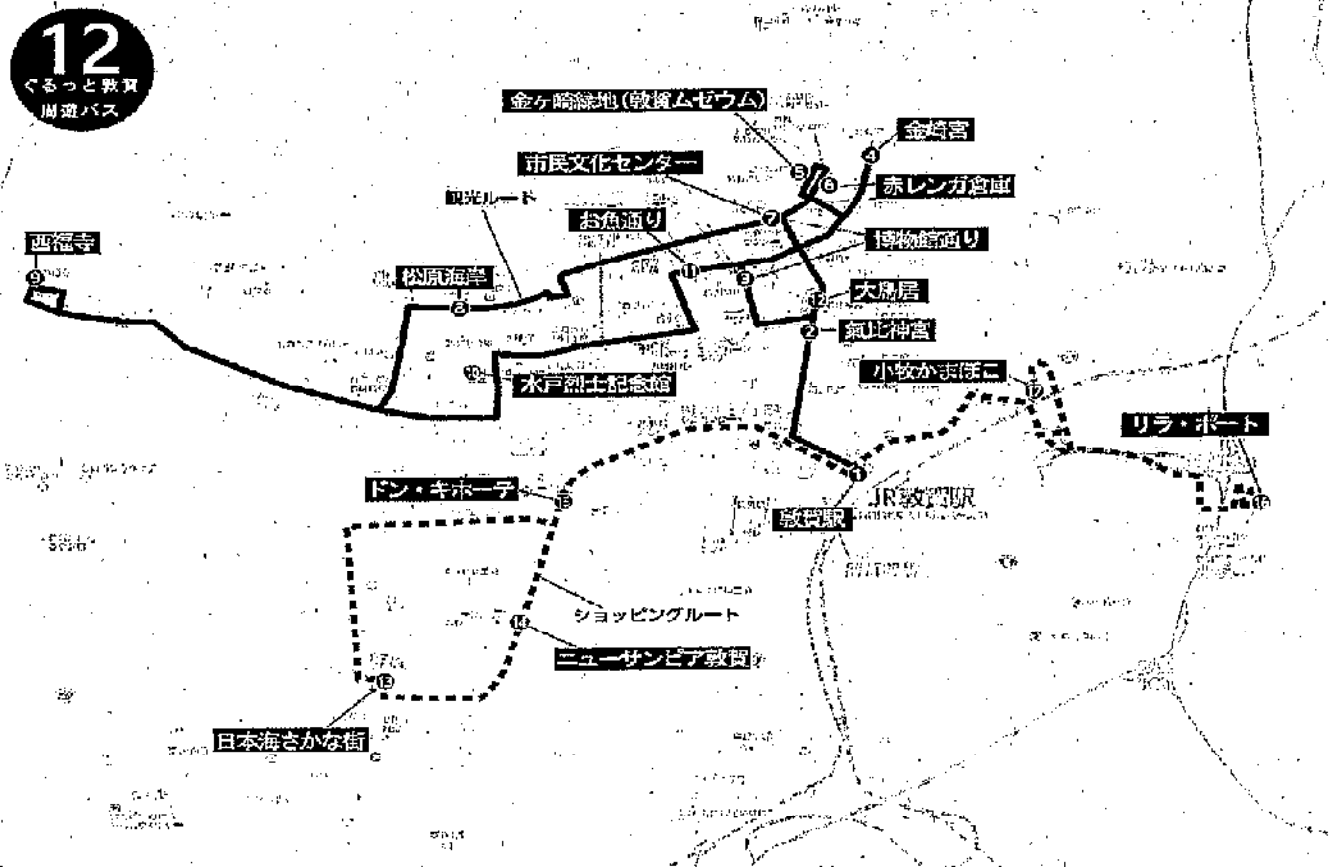
敦賀駅、氣比神宮、博物館通り、金崎宮、金ヶ崎緑地、松原海岸 等

※令和6年3月16日から臨時増便（5便）

ショッピングルート（毎日運行（13便）・土日祝日増（1便））

敦賀駅、日本海さかな街、ニューサンピア敦賀、ドン・キホーテ、リラ・ポート

ぐるっと敦賀周遊バスのルート



ぐるっと敦賀周遊バスの利用実績

● 利用実績

	乗降者数 (人)	1日平均乗降者数 (人)
平成30年度	41,243	113.0
令和元年度	37,311	101.9
令和2年度	16,036	43.9
令和3年度	23,554	64.5
令和4年度	32,755	89.5
令和5年度	50,807	139.2

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
新幹線開業後の状況	開業後1ヶ月 (R5.3.16~4.15) (人)	開業前1ヶ月 (R5.2.16~3.15) (人)	開業前年同期 (R5.3.16~4.15) (人)	開業前後1ヶ月 (R6.3/R6.2) 比較 (A)/(B) %	前年同期 (R6.3/R5.3) 比較 (A)/(C) %
	10,476	5,072	4,883	206.55%	214.54%

6

2次交通の整備状況 (市内周遊バス)

③ コミュニティバス

<運行ルート>

11系統

東浦線、常宮線、中央線、金山線、松原線、中郷木崎線、栗野杵見線、山公文名線、温泉線、東郷線、愛発線

<運賃>

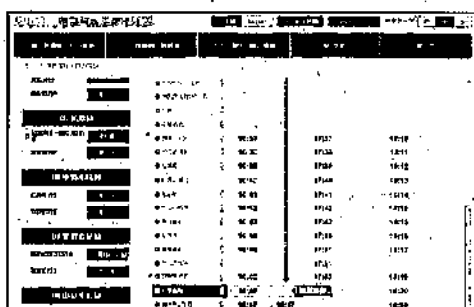
1日乗車 大人 200円
小人 100円

1日フリー券 大人 500円
小人 250円

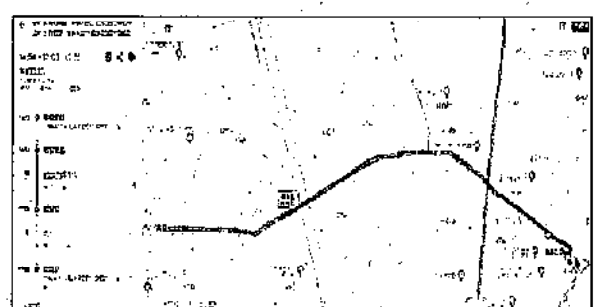
交通系ICカード
でも支払えます！



バスロケーションシステムで検索可能！

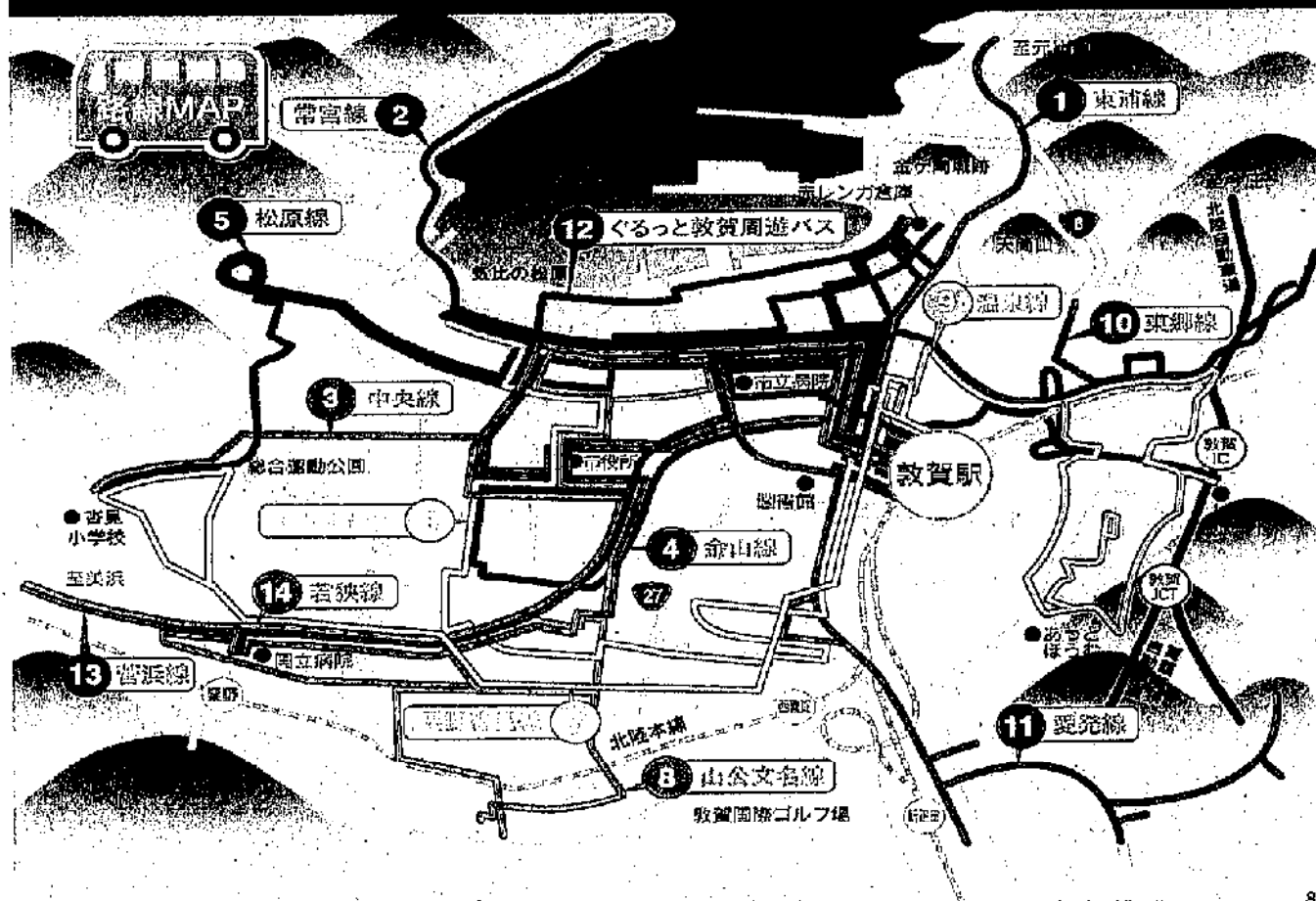


グーグルマップでも検索可能！



7

コミュニティバスのルート



コミュニティバスの利用実績

● 利用実績

	乗降者数 (人)	1日平均乗降者数 (人)
平成30年度	289,258	790.3
令和元年度	296,981	813.6
令和2年度	234,495	642.5
令和3年度	242,304	663.8
令和4年度	260,602	712.0
令和5年度	288,268	789.8

新幹線開業後の状況	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	開業後1ヶ月 (R6.3.16~4.15) (人)	開業前1ヶ月 (R6.2.16~3.15) (人)	開業前年同期 (R5.3.16~4.15) (人)	開業前後1ヶ月 (R6.3/R6.2) 比較 ((A) / (B)) %	前年同期 (R6.3/R5.3) 比較 ((A) / (C)) %
	26,298	25,882	21,979	101.61%	119.65%

※ (D) の内訳 → 休日 151.70% ・ 平日 92.14%

敦賀駅周辺の整備

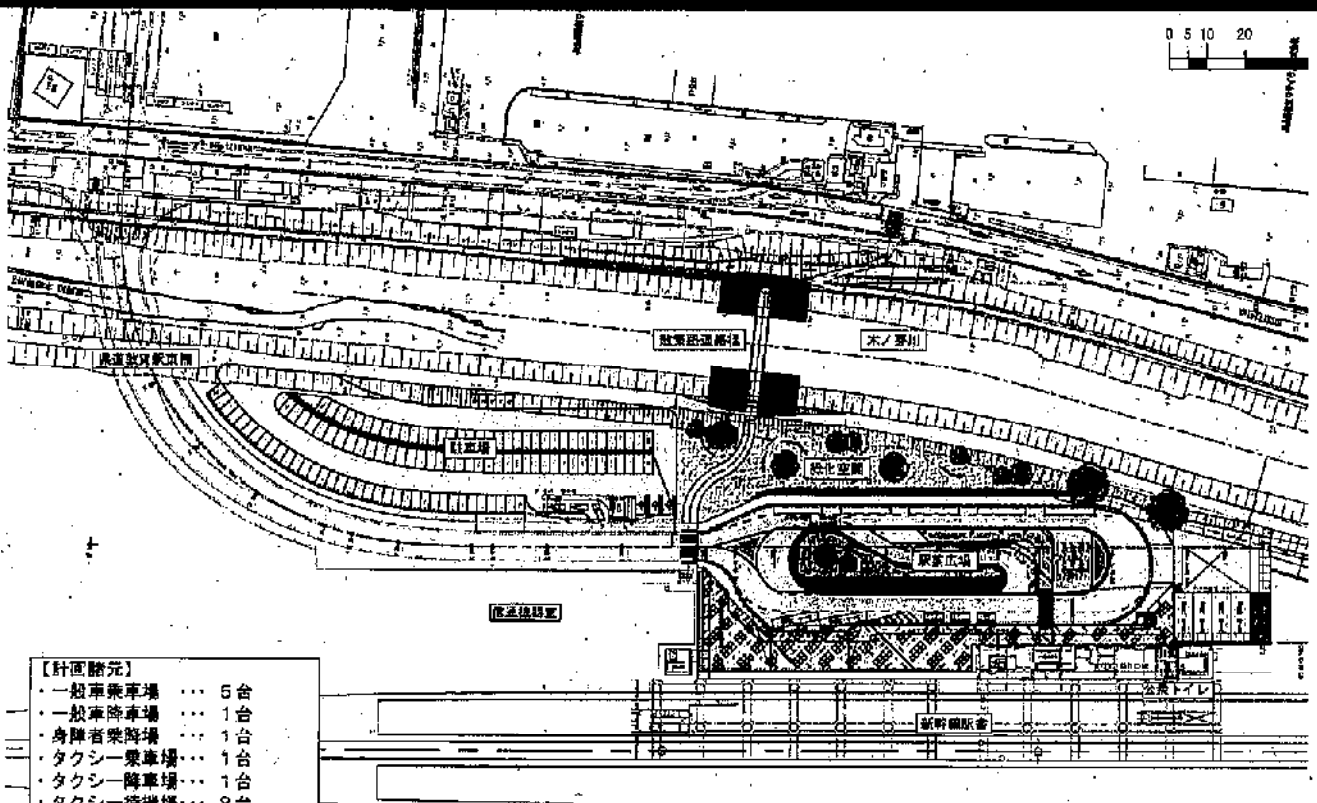
【広域的な交流促進に対応した新たな駅東口広場】



駅前ロータリー（バス・タクシー乗降場など）、市営駐車場、緑化空間、など

10

敦賀駅周辺の整備



【計画諸元】

・一般乗車場	… 5 台
・一般乗降場	… 1 台
・身障者乗降場	… 1 台
・タクシー乗車場	… 1 台
・タクシー降車場	… 1 台
・タクシー待機場	… 8 台
・バス乗降場	… 2 台
・バス待機場	… 9 台
・一般車駐車場	… 124 台

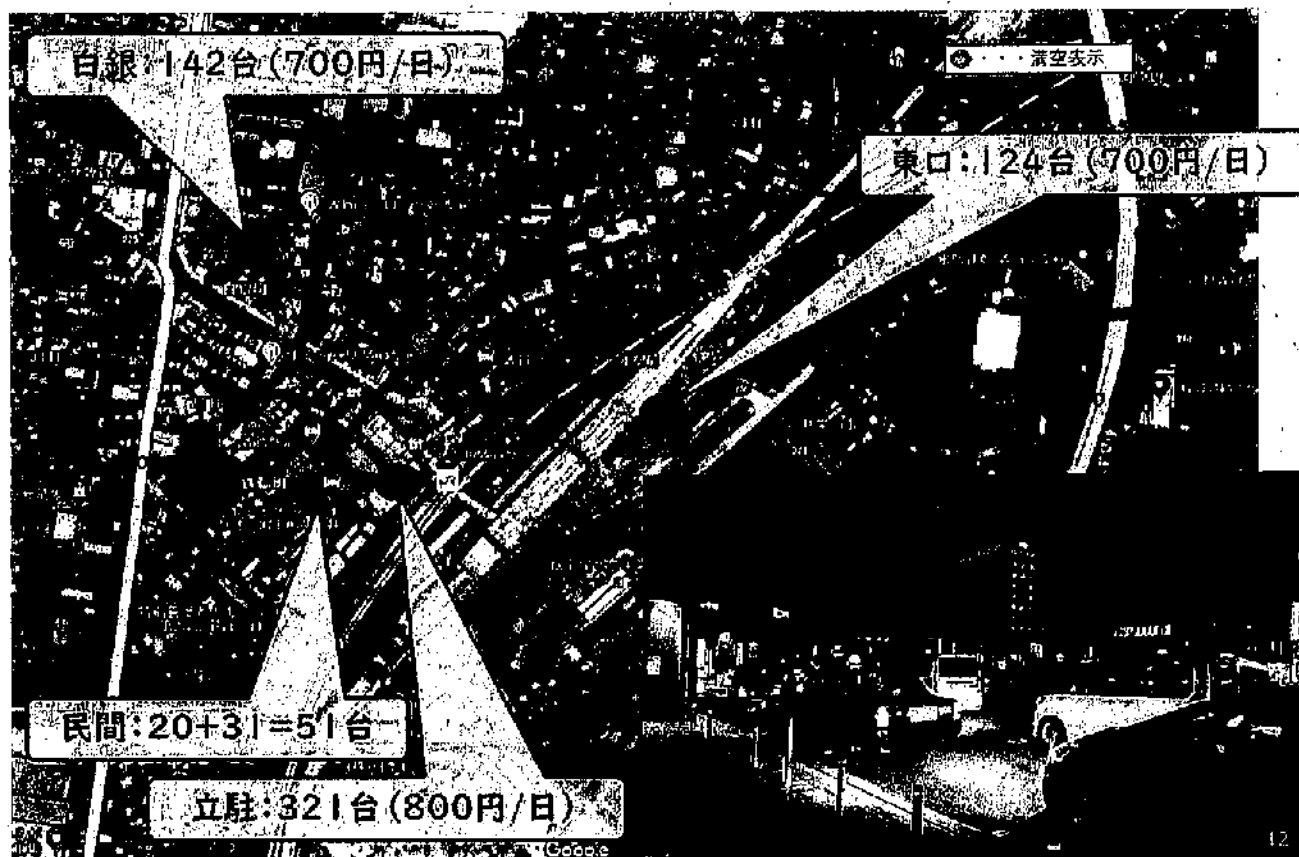
（令和2年9月現在）

大型バスの乗降場2台+待機場9台

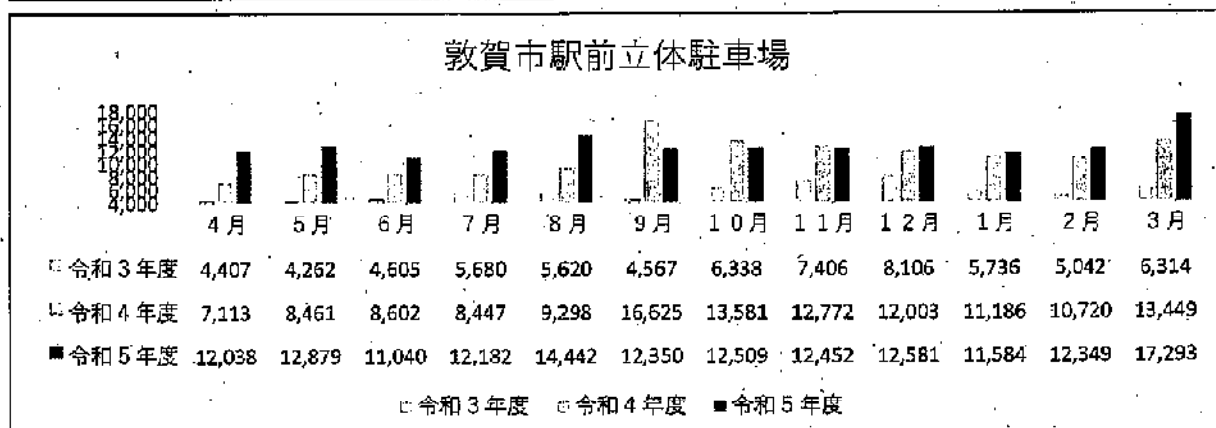
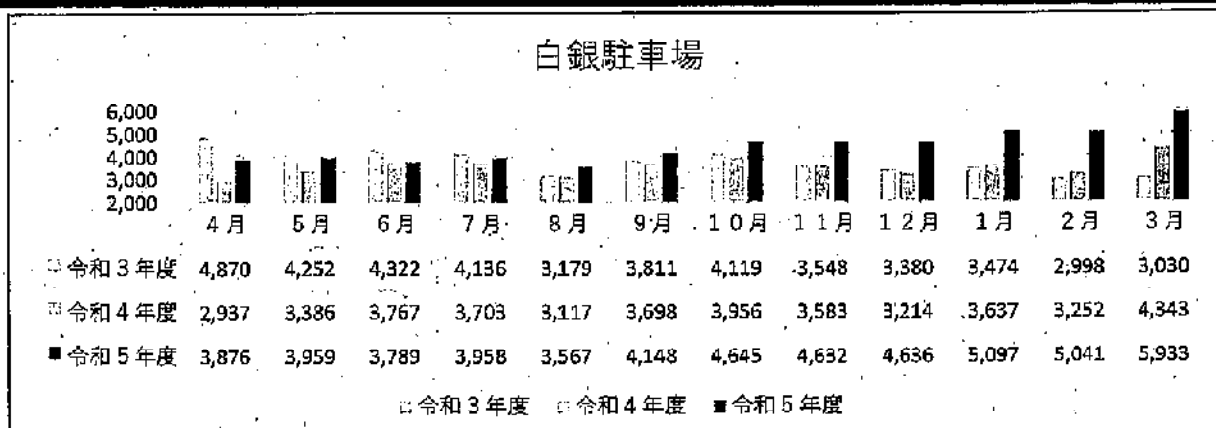
11

敦賀駅周辺の整備 【今後の課題：混雑緩和と市中心部への流れを】

周辺駐車場と駅前広場の混雑緩和



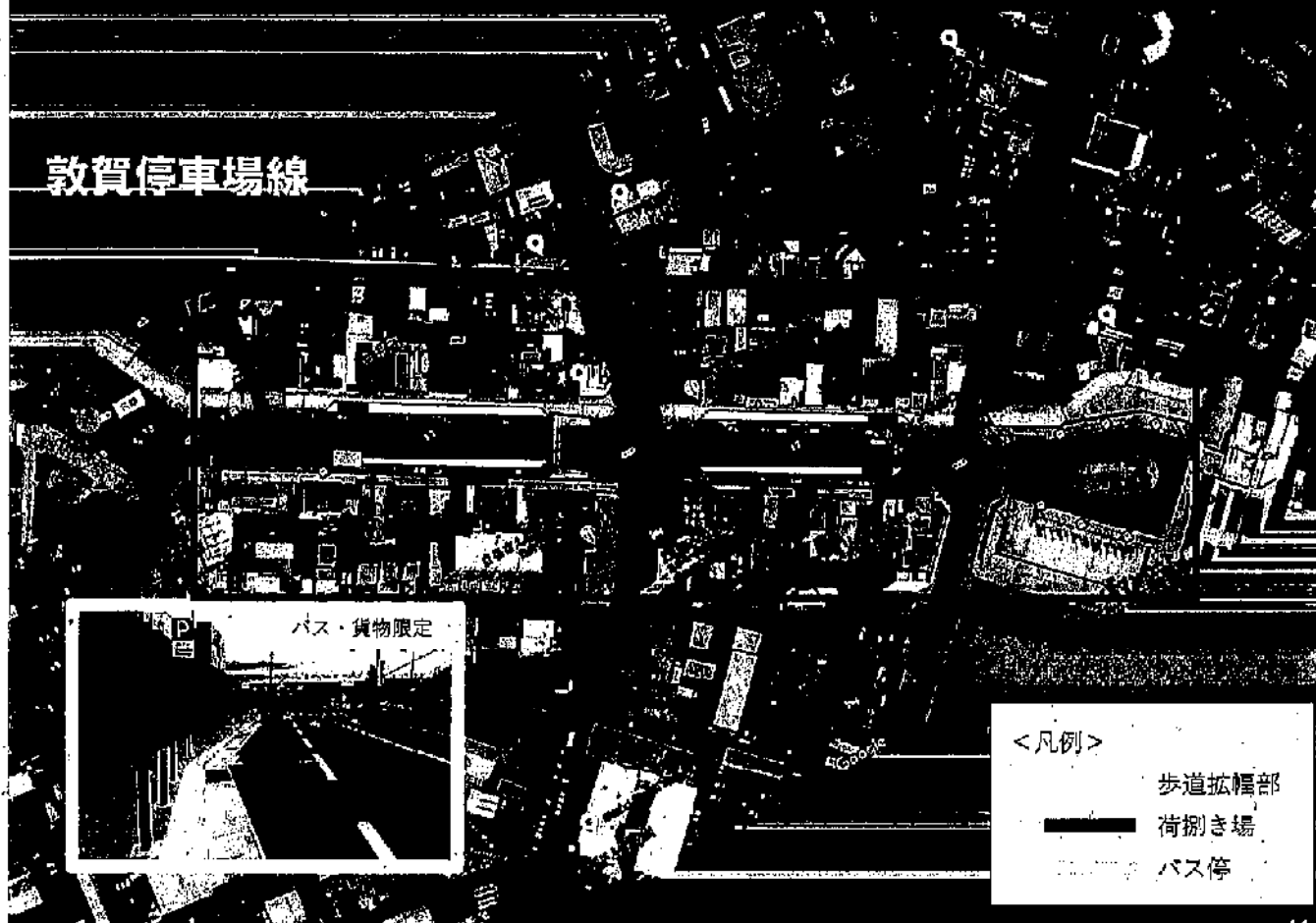
敦賀駅周辺駐車場 月別台数推移比較 (令和3～5年度)



<参考> 敦賀駅東口駐車場 (令和6年3月16日～29日) : 5, 227台

敦賀駅周辺の整備 【今後の課題：混雑緩和と市中心部への流れを】

敦賀停車場線



賑わいを楽しみながら回遊を！

JR敦賀駅から商店街・氣比神宮を経由して金ヶ崎へ誘客

- ①駅周辺エリア ⇒ JR敦賀駅西地区整備（ホテル、知育・啓発施設、飲食店、公園・広場）による誘客
- ②商店街エリア ⇒ 国道8号道路空間でのイベント、商店街、民間による取組、プレイヤー育成による誘客
- ③金ヶ崎エリア ⇒ ムゼウム、赤レンガ倉庫、オーベルジュ（開館中）による誘客



敦賀周遊バス利用

1.8倍

3月実績前年比

観光の2次交通手段浸透

北陸新幹線敦賀延伸に伴い、敦賀市内の観光地を巡る「くもっと敦賀周遊バス」の利用者が伸びている。3月の乗車実績は前年同月比2倍近くの約9千人で、駅から名所に向かう県外客らの2次交通手段として浸透している。（宇野和宏）



03

くもっと敦賀周遊バス

敦賀周遊バスは、敦賀観光バス（白銀町）が運営し、市が補助金を支出している。敦賀駅を起点に気比神宮や金崎宮などを経由する「観光ルート」、日本海とかな街や温泉施設リッ・ポートなどを経由する「ショッピングルート」の2ルートで走らせている。

観光ルートについては、新幹線開業後の需要に対応するため、3月16日から土

北陸新幹線 金沢-敦賀開業

日祝日限定の臨時便を1日5便追加し、平日は1日9本、土日祝日は16本運行。市交通政策課によると、3月1～31日の乗車人数は8956人で、1日あたりの利用者は前年同月比の約1.8倍となっている。

敦賀駅から4月10日午前

降車し、赤レンガ倉庫や資料館「人道の港敦賀ムゼラム」周辺の散策を楽しんだ。気比神宮や博物館通りを目的に訪れた大坂市の女性（64）は「1時間に1本程度走っているの、あちこち巡りやすい」と話していた。

敦賀観光バスの越後一芳所長によると、乗降が多いのは赤レンガ倉庫や金崎宮、日本海とかな街。敦賀駅から気比神宮まで徒歩をしたら、気比神宮からバスに乗って別の観光地を回るケースも少なくないという。新幹線延伸前は特急サンダーバードや新快速列車で関西方面から訪れた人の乗車が目立っていたが、延伸後は関東や信越方面からの客が目立つという。

「観光客を中心に駅からの2次アクセス手段として認知されてきている」と好調な利用状況に手応えを見せる。

周遊バスの運賃は大人200円、小学生以下100円。1日フリー券も販売している。

©福井新聞 無断複製・転載を禁じます

(第3版(経済版13号))

小田

マ

27.1

新幹線開業1ヵ月 市まとめ

主要7ヵ所 終着駅効果顕著

敦賀市は26日、北陸新幹線敦賀駅開業から1ヵ月間の市内の観光施設の来訪者数を発表した。前年同月比で鉄道資料館は約2.5倍、公設民営商店「ちえなみぎ」は約2.1倍となる。主要7施設全体で約1.6倍の約11万2600人が訪れた。「想定以上の伸び」(市まちづくり観光部)で、終着駅効果が顕著に表れた形だ。(宇野和宏) 【21面に関連記事】

敦賀の観光施設来訪1.6倍

「ちえなみぎ」には3月16日から4月15日までに5万7268人が来店。開業の1ヵ月前と比較しても約2.2倍で、敦賀駅西口の中核施設としてにぎわいを見せた。鉄道資料館は65521人が来店。新幹線延伸で「鉄道のまち・敦賀」に注目が集まったことで鉄道ファンを引きつけた。

資料館「入道の港」敦賀ムゼウムは新幹線開業前は約15%だった開業後からは約30%に増加。一方、温泉施設「リラ・ポート」は前年同月比約1.2倍にとどま

項目	名称	(A) 開業後1ヵ月 (24.3.16~4.15) (人)	(B) 開業前1ヵ月 (24.2.16~3.15) (人)	(C) 開業前年同月 (23.3.16~4.15) (人)	(D) 開業前後1ヵ月 (24.3/24.2)比較 ((A)/(B))%	(E) 前年同月 (24.3/23.3)比較 ((A)/(C))%
		(人)	(人)	(人)	((A)/(B))%	((A)/(C))%
来訪者数	金ヶ崎緑地	12,099	4,586	11,809	263.82%	102.46%
	赤レンガ倉庫	14,260	7,024	9,292	203.02%	153.47%
	鉄道資料館	6,521	2,721	2,615	239.65%	249.37%
	ムゼウム	4,899	1,444	2,606	339.27%	187.99%
	観光案内所(ハルーク)	3,174	1,532	2,028	207.18%	156.51%
	ちえなみぎ	57,268	26,428	27,720	216.69%	206.59%
	リラポート	14,410	12,377	12,444	116.43%	115.80%
利用客数	計	112,631	56,112	68,514	200.73%	164.39%
	コミュニティバス	26,298	25,882	21,979	101.61%	119.65%
	ぐるっと敦賀周遊バス	10,476	5,072	4,883	206.55%	214.54%
	シェアサイクル	1,650	801	729	205.99%	226.34%
	計	38,424	31,755	27,591	121.00%	139.26%

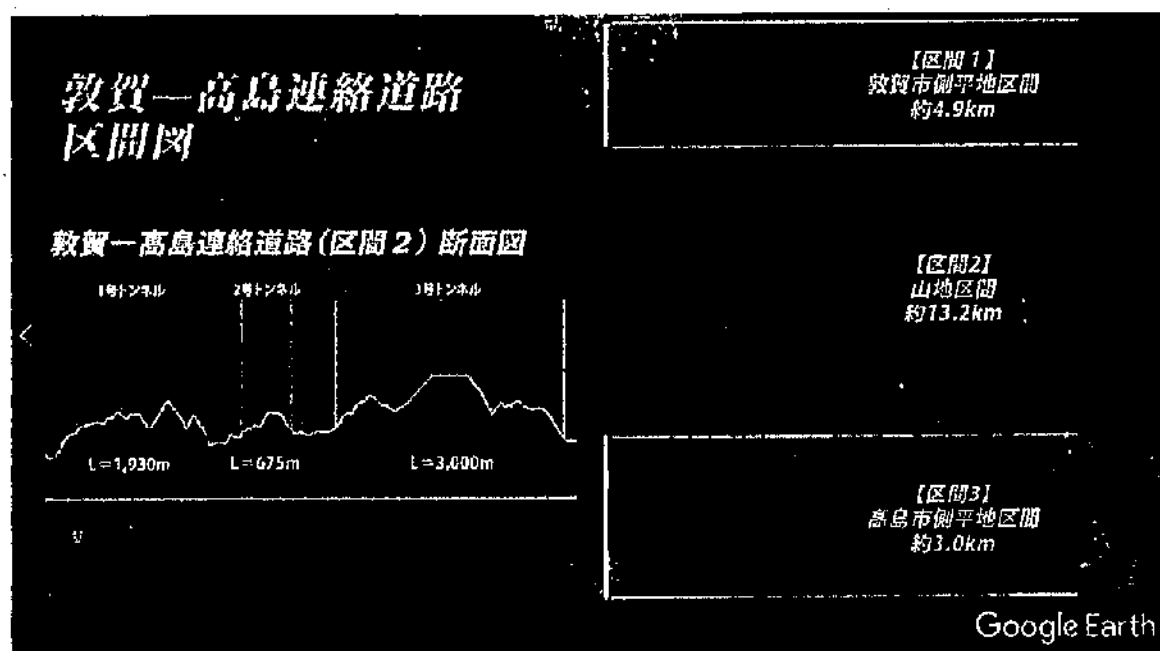
敦賀市内の主要施設の利用状況

8月まで進行を続け、乗客も増え、みどりの窓口の運用方法を食め、利便性向上に向けた方を丁寧と西日本と協議していく意

向。
米澤光治市長は記者会見で「おおむね好調な滑り出しを切れたが、にぎわいを持続していくことが大事」と強調。県など設けられている「まちづくりファンド」を活用して飲食店などの新規出店を後押ししていく考えを示し「敦賀に泊まり、食べて、飲んで、お土産を買っていただき、経済効果が生まれる展開を目指していきたい」と述べた。

©福井新聞 無断複製・転載を禁じます

敦賀－高島連絡道路の概要



令和 4 年11月

敦 賀 市

～ 目 次 ～

- 1 周辺地域の道路状況・・・・・・・・・・・・・1
- 2 国道161号の現況及び整備状況・・・・・・・・・・・・・2
- 3 敦賀－高島連絡道路の整備概要・・・・・・・・・・・・・3
- 4 整備効果・・・・・・・・・・・・・7

【資料編】

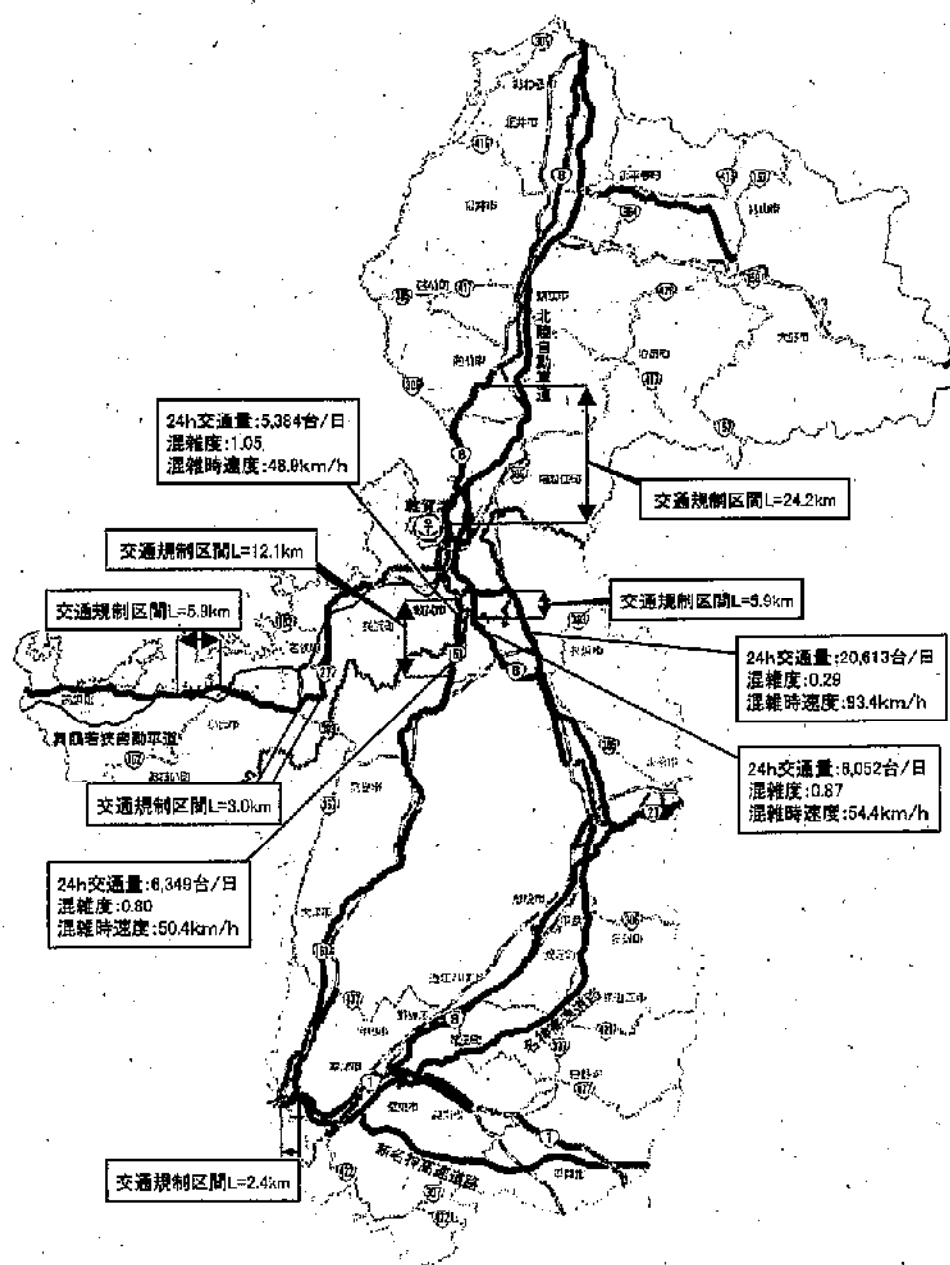
- 1 「敦賀－高島連絡道路」を巡る主な活動・・・・・・・・・・・・・9
- 2 栗野地区区長会による「敦賀市栗野地区と高島市マキノ町
を結ぶ「県境トンネル」実現に関する要望書」・・・10
- 3 敦賀－高島連絡道路整備促進期成同盟会の概要・・・11
- 4 令和5年度 福井県への重要要望・・・・・・・・・・・・・13

1 周辺地域の道路状況

嶺南地域と関西都市圏・中部都市圏を結ぶ幹線道路は、国道8号、国道161号、北陸自動車道や2014年7月に開通した舞鶴若狭自動車道の4路線10車線が整備されている。

しかし、福井県と滋賀県を結ぶ幹線道路は、国道8号、国道161号、北陸自動車道の3路線のみで、幹線道路機能が脆弱な状況となっており、特に国道161号は、多くの線形不良箇所の存在等から大きな課題がある。

◆ 図表1 本市及び周辺地域の幹線道路ネットワーク

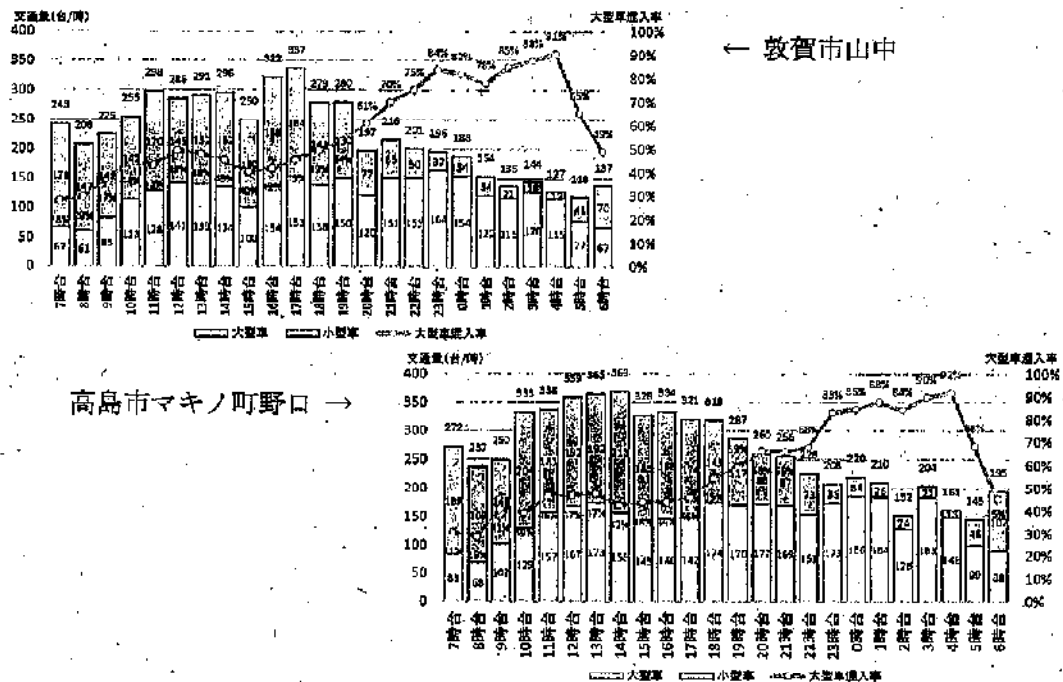


2 国道161号の現況及び整備状況

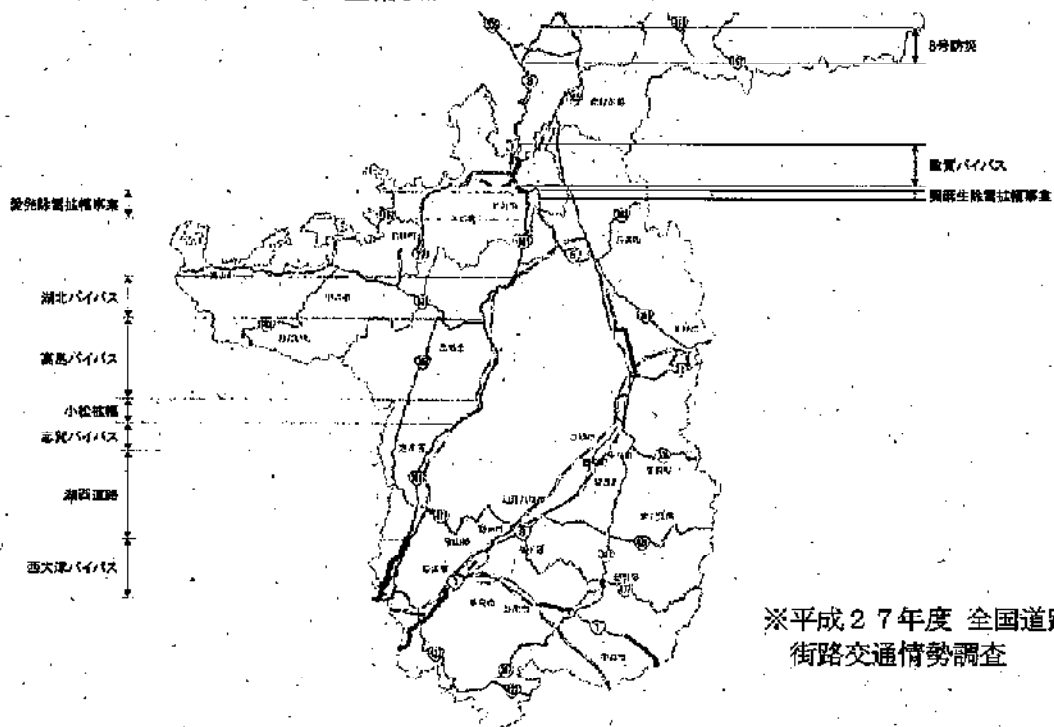
国道161号については、福井県敦賀市を起点とし、滋賀県大津市に至る全長約111kmの一般国道であり、恒常的に一定の交通量を誇っている。

一方で、線形不良個所が多いため、国道161号は、福井県側で「愛発除雪拡幅事業」、滋賀県側では「西大津バイパス」をはじめ、6つの事業が進捗しているが、福井・滋賀県境が唯一の未対応区間として残存している。

◆ 図表2 時間帯別交通量



◆ 図表3 国道161号の整備状況



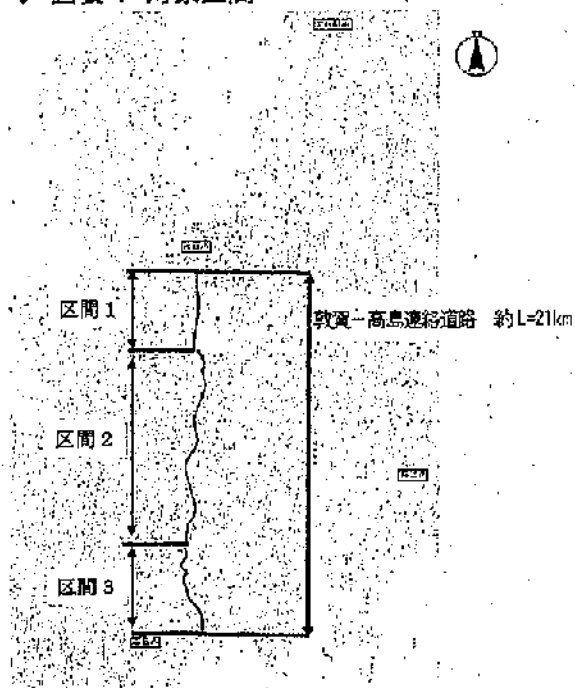
3 敦賀－高島連絡道路の整備概要

(1) 対象区間

敦賀－高島連絡道路は、国道27号を起点とし、国道161号（湖北バイパス）を終点とする約21kmを対象区間としており、次の3つの区間で構成される。

- ・区間1（敦賀市側の平地区間）約4.9km
- ・区間2（両市境の山地区間）約13.2km
- ・区間3（高島市側の平地区間）約3.0km

◆ 図表4 対象区間



(2) 基本条件

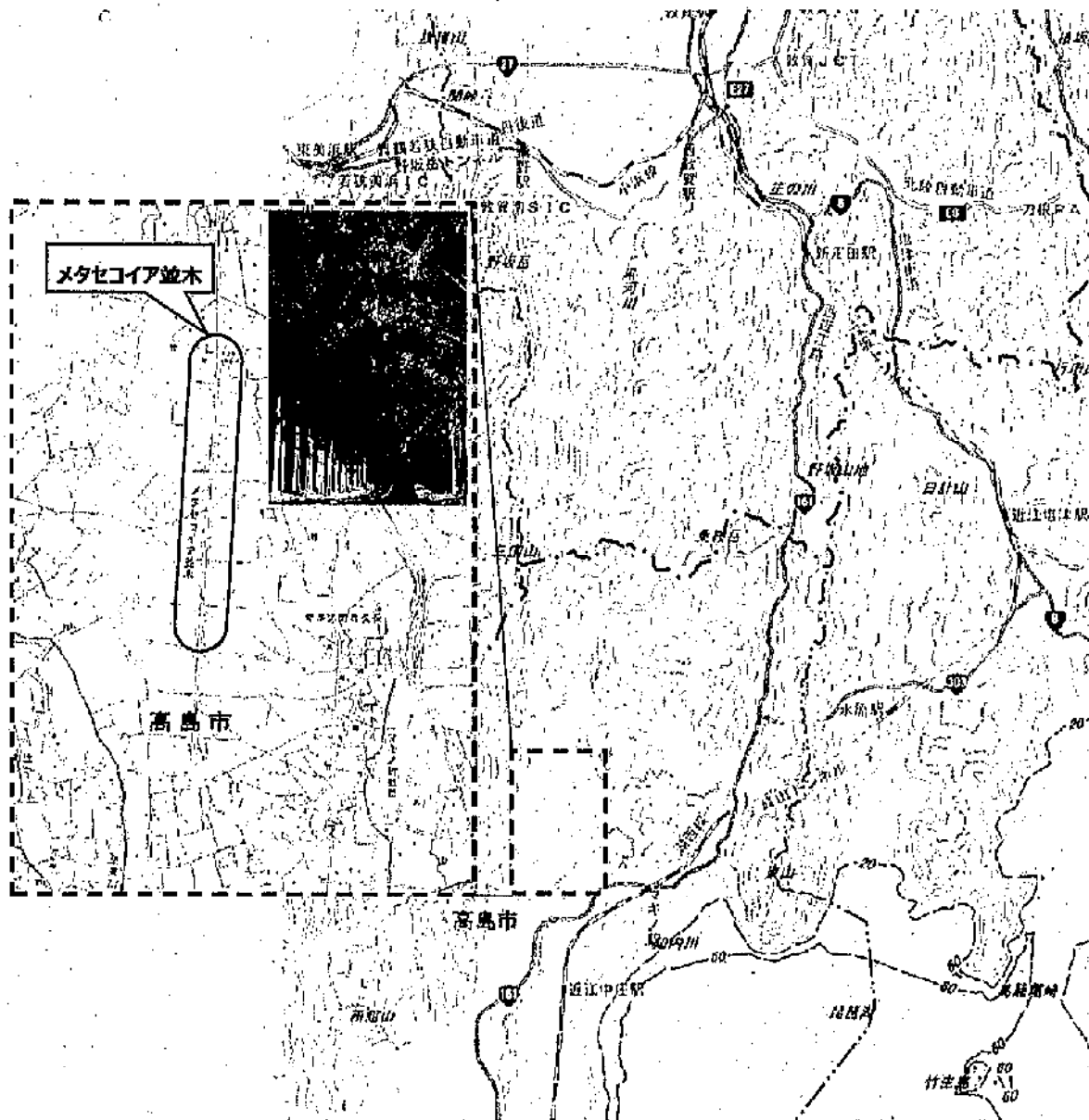
敦賀－高島連絡道路の整備検討は、次の基本条件のもと行っている。

項 目		基 本 条 件
計画交通量		5千台/日～10千台/日
道路の種級区分		3種3級 ※地方部その他道路－計画交通量4,000以上20,000未満
設計速度		60km
車線数		2車線
標準幅員		11.5m
	車線幅員	3m
	路肩幅員	0.50～0.75m
	堆雪帯	1.5m
	歩道幅員	2.0m

(3) 路線設定の前提条件（沿線における環境保全）

敦賀市側については、トンネルの施工にあたり、周辺の水文環境へ配慮するとともに、特に、高島市側については、国道 161 号と並行して観光資源の一つであるメタセコイア並木が存在することから、路線設定にあたってこれを回避することを前提としている。

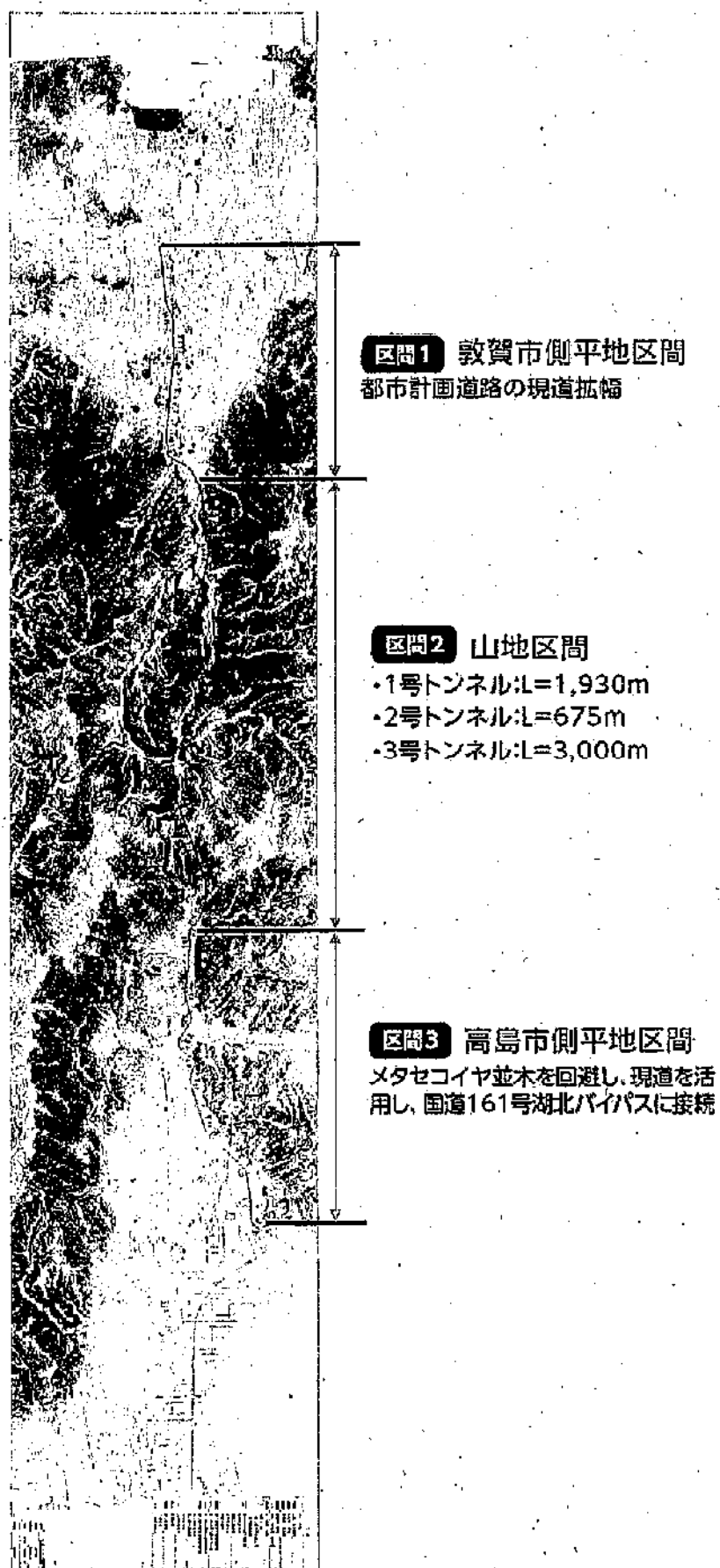
◆ 図表5 メタセコイア並木の位置



(4) 路線設定

区 分	区間 1 (敦賀市側平地区間)	区間 2 (両市境山地区間)	区間 3 (高島市側平地区間)
図 面			
概 要	区間 1 は敦賀側の平地部区間約 4.9 km であり、起点は国道 27 号、終点は平地部と山地部の境界付近までとする。 区間 1 の起終点間は都市計画道路(市道)が整備されており、都市計画道路を現道拡幅する計画とした。	事業費が高額となり、危険物積載車両の通行が規制される長大トンネルの整備を回避する。 そのため、雪害被害等を回避する観点から、1 号から 3 号までの 3 つのトンネル群で構成した。	高島市マキノ町側の平地部区間の約 3.0 km 区間であり、高島市マキノ町白谷地区から知内川支川及び知内川の北側斜面及び現道を活用し、終点は国道 161 号湖北バイパスに接続する。
総 延 長	4.9 km	13.2 km	3.0 km
	21.1 km		
概算事業費	約 32.7 億円	約 312.6 億円	約 6.5 億円
	約 351.8 億円		

◆ 図表6 敦賀—高島連絡道路の路線全景



4 整備効果

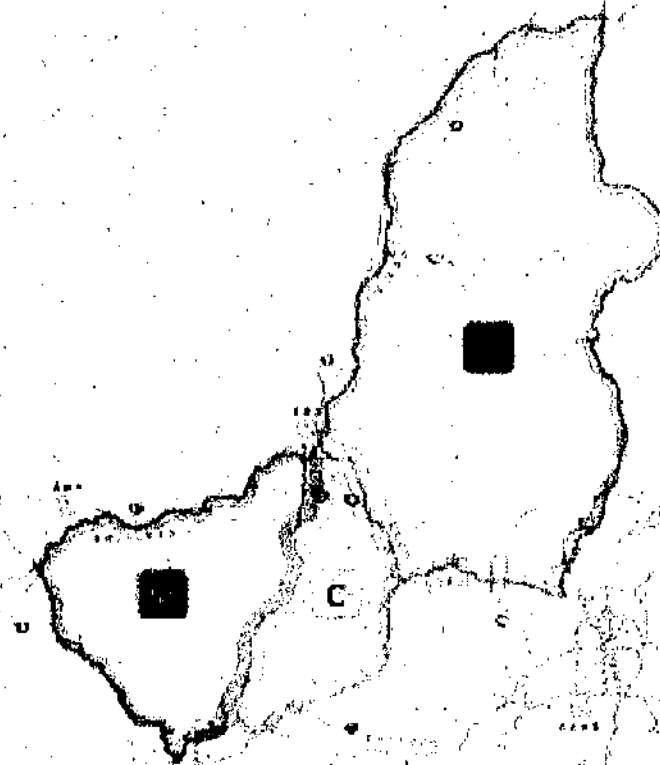
(1) 広域的な経済圏の構築 -ハーモニアスポリス構想-

敦賀市は重要港湾 敦賀港を有するが、山々に囲まれた隔絶性が高く、狭小な平野部といった課題。この隘路を開くべく、滋賀県高島市をはじめ周辺地域と広域的な経済圏の形成を目指す「ハーモニアスポリス構想」を策定。

そのため、敦賀－高島連絡道路により、高島市との物流網を確保し、広域的な経済圏を実現。

※構想の実現に向けて、高速増殖原型炉「もんじゅ」廃止措置に伴う地域振興として、政府一体となって取り組むことが明文化（H28.12）

◆ 図表 7 敦賀－高島連絡道路による広域交通ネットワークの強靱化



・近畿・北陸・中部圏広域交通ネットワークの強靱化(A+B)

敦賀－高島連絡道路の結節により、敦賀を中心に、福井・金沢(北陸圏)及び京都・大阪・兵庫(近畿圏)並びに名古屋(中部圏)のネットワークの強靱化を実現

・近畿・北陸圏及び琵琶湖循環広域交通ネットワークの強靱化(A+C)

敦賀－高島連絡道路の結節により、本市を中心に、福井・金沢(北陸圏)及び京都・大阪・兵庫(近畿圏)並びに琵琶湖循環のネットワークの強靱化を実現

(2) 国土強靱化の実現

南海トラフ地震発災時における敦賀港の機能確保

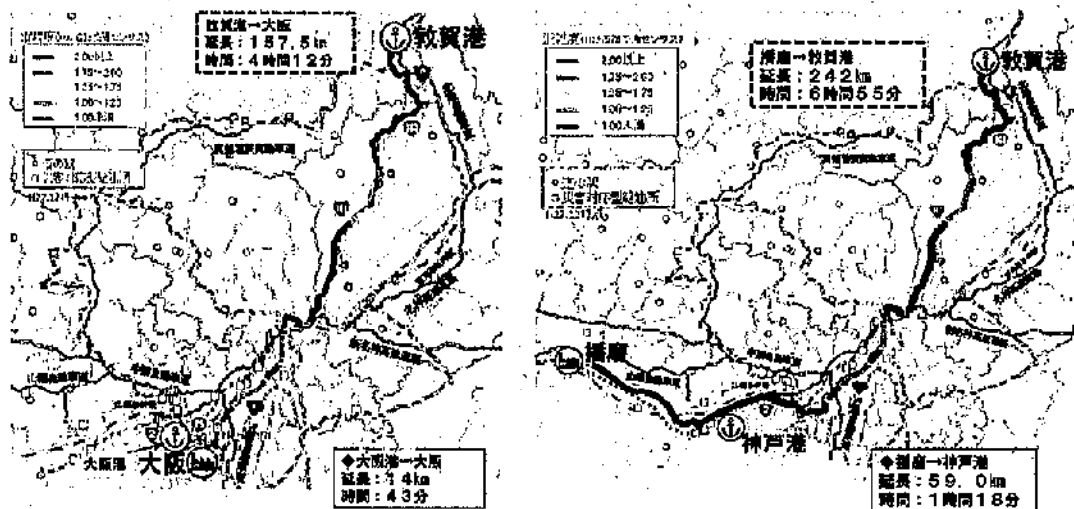
南海トラフ地震発災時に、敦賀港は大阪港、神戸港の代替港として指定。

しかし、現道である国道 161 号は多数の線形不良箇所が存在し、災害物資・人員の円滑な輸送や今津駐屯地からの災害派遣において極めて脆弱。

そのため、敦賀－高島連絡道路により、敦賀港の代替港としての機能確保とともに、今津駐屯地からの災害派遣等の円滑化を図り、福井県・滋賀県北部を南海トラフ地震等の災害復旧拠点とすることで、国土強靱化を実現。

◆ 図表 8 太平洋側大規模災害時における

北陸地域港湾による代替輸送基本行動計画 (H29.1 北陸地方整備局策定)



(3) 激甚災害・原子力防災への対応 -避難道路の確保-

敦賀市は多くの原子力発電所を有し、避難道路の多軸化は不可欠であり、特に、本市の人口の 3 分の 1 を占める敦賀市南部の迅速かつ円滑な避難は大きな課題。

そのため、敦賀－高島連絡道路により、激甚災害時等における迅速かつ円滑な避難を実現。

資料編

1 「敦賀－高島連絡道路」を巡る主な活動

敦賀市及び敦賀商工会議所は、20年にわたって滋賀県高島市に至る広域縦貫道路「敦賀－高島連絡道路」の整備実現に向け、活動を継続し、令和3年5月29日に「敦賀－高島連絡道路整備促進期成同盟会」を設立した。

時 期	主 体	活 動 概 要
2001 年 ～2016 年	敦賀市	福井県への重要要望において、滋賀県マキノ町へ至る道路の早期整備採択等を要望 ※2016 年まで概ね同内容で要望継続
2004 年	敦賀商工会議所	福井県との懇談会等で黒河～マキノ町間道路整備を要請
2005 年	敦賀商工会議所	「黒河（敦賀市）～マキノ（高島市）間道路整備促進懇談会」を開催し、敦賀商工会議所及びマキノ町商工会等が整備実現に向けて、連携した継続的な整備促進に関する決議を採択
2017 年～	敦賀市	福井県への重要要望において、敦賀－高島連絡道路の早期整備等を要望 ※2020 年より、最重点事項として知事へ直接要望
2019 年 9 月	敦賀商工会議所 敦賀市	敦賀商工会議所主催の市と会議所との「敦賀市経政懇話会」にてハーモニアスポリス構想について議論し、課題を共有
2021 年 2 月	栗野地区区長会	敦賀市長及び敦賀市議会議長並びに敦賀商工会議所会頭に対して、「敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ「県境トンネル」実現に関する要望書」を提出
2021 年 5 月	敦賀商工会議所 敦賀市区長連合会 敦賀市 等	敦賀市長、敦賀市議会議長、敦賀商工会議所会頭を发起人とし、市民・関係機関が一堂となって早期整備を実現するため、期成同盟会を設立
2021 年 11 月	高島市 高島経済会 敦賀市 敦賀商工会議所	高島市及び高島経済会並びに敦賀市及び敦賀商工会議所にて、政経促進懇話会を開催し、敦賀－高島連絡道路の整備促進について意見交換を実施

2 栗野地区区長会による「敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ「県境トンネル」実現に関する要望書」

- ・時 期：令和3年2月19日（金）
- ・要望機関：栗野地区区長会一同



敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ
「県境トンネル」実現に関する要望書

令和3年2月19日
 栗野地区区長会一同

敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ
「県境トンネル」実現に関する要望書

令和3年2月19日
 栗野地区区長会一同

敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ
「県境トンネル」実現に関する要望書

令和3年2月19日
 栗野地区区長会一同

敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ
「県境トンネル」実現に関する要望書

令和3年2月19日
 栗野地区区長会一同

敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ
「県境トンネル」実現に関する要望書

令和3年2月19日
 栗野地区区長会一同

敦賀市栗野地区と高島市マキノ町を結ぶ
「県境トンネル」実現に関する要望書

令和3年2月19日
 栗野地区区長会一同

[illegible]



特別顧問

高木 毅 衆議院議員



会長

瀧上 隆信 敦賀市長



頑張ろう三唱

4 令和5年度 福井県への重要要望（知事要望 抜粋）

- ・時 期：令和4年9月9日（金）
- ・要望先：福井県知事 杉本 達治

【経済政策部経済政策課、交通まちづくり課／安全政策部環境政策課／産業部農林水産政策課／土木部道路建設課、港湾政策課】

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像の実現について

昨年6月24日に、知事と会談に際し、決意を込めて一言により、立地地域の将来像の実現に向け「福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共同ビジョン」が策定されるとともに、来る6月10日には、知事との会談に際して本方針と加藤が語り交わされました。

この共同ビジョンは、地域の発展や社会の創出を目的とするなど、本市の産業及びエネルギー政策の基盤となる「ハーモニアポリス構想」と異なる部分が多く、地味な計画を策定する等、両者の相違が大きく異なるものがあると考えています。

一方で、知事との会談に際し、本市にとって重要な加藤が語られたものの、その一方で、本市のみで実現するには極めて困難であるのが実情です。

つまり、経済・産業政策とこれにより生まれる雇用向上が図られる共同ビジョン・ハーモニアポリス構想と、一方ハーモニアポリス構想とは異なる部分の策定、またハーモニアポリス構想の策定に向け、次の事項について要望します。

- 1 経済、観光等のインフラの整備促進について、今後、さらなる観光が促進される等、観光地等として、かつ産業が振興する「観光・産業・観光」の発展を加速させる等、経済政策である「経済・産業・観光」を「福井県共同ビジョン」にも盛り込み、早期に策定されること。
- 2 水素・アンモニアサプライチェーン構築について、国及び電力事業者と連携し、大規模な水素・アンモニアサプライチェーンの構築及び水素・アンモニアの導入促進を促進する等、水素・アンモニアの導入促進を図ること。
- 3 水素・アンモニアサプライチェーン構築の促進について、水素・アンモニアの導入促進を図ること、国及び電力事業者と連携し、大規模な水素・アンモニアの導入促進を図ること。
- 4 官民連携の促進の推進策等について、官民連携の促進を図ること、官民連携の促進を図ること、官民連携の促進を図ること。

敦賀ー高島連絡道路の早期整備実現

1 広域的な経済圏の構築・ハーモニアポリス構想・臨海性・狭小性の課題を打開し、物流網を確保し、広域的な経済圏を実現

田舎型の実現に向けて、高島市（高島市）の臨海性・狭小性の課題を打開し、物流網を確保し、広域的な経済圏を実現

2 国土強靱化の実現

南海トラフ地震発生時に、敦賀港は大阪港、神戸港の代替港として指定。しかし、国道161号は多数の線形不良箇所が存在し、脆弱

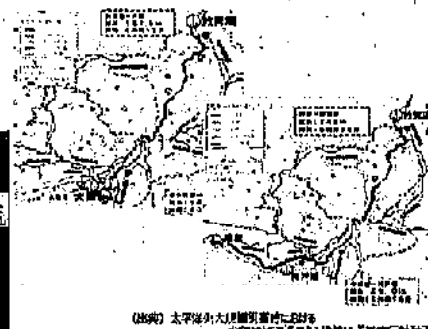
敦賀ー高島連絡道路により、代替港としての低コスト確保と災害派遣等の円滑化を図り、国土強靱化を実現



3 県境フロンティアプロジェクトの推進

琵琶湖西側道路とつながること、高島市及び大津市、そして京都市に至る広域的連携を実現し、知事が推進する県境フロンティアプロジェクトを推進

令和3年5月29日 期成同盟会設立総会



（出典）太平洋大規模地震発生時の代替港指定に関する調査報告書（国土交通省）

令和6年5月31日

議員各位

敦賀市まちづくり観光部

まちづくり観光部所管施設等における北陸新幹線
敦賀開業前後の各種数値比較（2ヶ月）について（おしらせ）

令和6年3月16日の北陸新幹線敦賀開業後2ヶ月におけるまちづくり観光部所管施設等の各種数値比較を行いましたのでお知らせいたします。

記

1 比較対象期間 ①開業後2ヶ月（R6.3.16～5.15）、②前年同期（R5.3.16～5.15）における各種数値の比較（前年比①／②）

2 比較結果 各種施設 前年比154.51%
交通機関 前年比137.34%
（施設ごとの詳細は別紙のとおり）

3 その他（数値の分析）

各施設等の数値を比較すると前月に引き続き堅調に推移しており、短期的ではありますが新幹線の開業効果と考えます。今後も引き続き調査を続け、新幹線効果が持続するよう中長期的な経過を確認していきます。

ぐるっと敦賀周遊バス	216.72%
鉄道資料館	209.94%
シェアサイクル	206.52%
ちえなみき	191.66%
ムゼウム	187.09%

問合せ先

担当課 まちづくり推進課 酒谷・米澤
交通政策課 飯田・瀧口
観光誘客課 橋本・小保
人道の港発信室 西川・松田

TEL 22-8137

（内線3423）

まちづくり観光部所管施設等における新幹線開業前後の各種数値比較（開業2ヶ月）

令和6年5月31日
まちづくり観光部

項目	施設等名称	担当課	(A)	(B)	(C) = (A) + (B)	(D)	(E) = (C) / (D)	備考 (増減理由等)
			開業後1ヶ月 (R6.3.16~4.15) (人)	開業後2ヶ月目 (R6.4.16~5.15) (人)	開業後2ヶ月間 (R6.3.16~5.15) (人)	開業前年2ヶ月間 (R5.3.16~5.15) (人)	前年同期2ヶ月分 (R6/R5) 比較 (%)	
来訪者数	金ヶ崎緑地	観光誘客課	12,099	10,770	22,869	21,163	108.06%	前年同時期もイベント開催等により多くの集客があった
	赤レンガ倉庫	観光誘客課	14,260	15,050	29,310	19,581	149.69%	開業効果により増加が見られる
	鉄道資料館	観光誘客課	6,521	5,450	11,971	5,702	209.94%	開業効果により顕著な増加が見られる
	ムゼウム	人道の港発信室	4,899	4,016	8,915	4,765	187.09%	開業効果により顕著な増加が見られる
	観光案内所（オルパーク）	観光誘客課	3,174	2,520	5,694	3,832	148.59%	開業効果により増加が見られる
	ちえなみき	まちづくり推進課	57,268	43,423	100,691	52,535	191.66%	開業効果により顕著な増加が見られる
	リレポート	観光誘客課	14,410	14,053	28,463	26,987	105.47%	他施設と比べて微増となっているのは市民利用が多いことが要因と見られる
	計		112,631	95,282	207,913	134,565	154.51%	全体的には開業効果により概ね堅調に推移している
利用者数	コミュニティバス	交通政策課	26,298	26,427	52,725	43,776	120.44%	市民利用が多いと思われるが、土日の利用は増えている
	ぐるっと敦賀周遊バス	交通政策課	10,476	6,712	17,188	7,931	216.72%	開業効果により顕著な増加が見られる
	シェアサイクル	交通政策課	1,650	1,646	3,296	1,596	206.52%	開業効果により顕著な増加が見られる
	計		38,424	34,785	73,209	53,303	137.34%	全体的には開業効果により概ね堅調に推移している

※この調査は開業効果を短期的に見たものです。今後も引き続き調査を続け、長期的な推移を確認していきます。

<参考>

東西連絡バス（東⇄西）	交通政策課	①（R6.3.17~4.15）※開業日除く。		②（R6.4.16~5.15）	備考1 （開業日 乗車人数）	備考2 （運行状況）	③の補足 東⇄西：65.7% 西⇄東：34.3% （全体利用者数：1830人）※開業日除く。 ※利用者の意見として、ホームから降りた際に西口・東口に何があるのか分からないや東と西を越える距離が短いなどの意見があった。
		平日平均（人）	土日平均（人）	土日平均（人）※GW含む			
		62	127	69	16日：802人	3.16~3.31：全日運行 4月以降：土日祝のみ運行 （お盆、GW含む。）	

まちづくり観光部所管施設等における新幹線開業前後の各種数値比較

(参考) 先月公表 令和6年4月26日
まちづくり観光部

項目	施設等名称	担当課	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	備考 (増減率等)
			開業後1ヶ月 (R6.3.16~4.15) (人)	開業前1ヶ月 (R5.2.16~3.15) (人)	開業前年同期 (R5.3.16~4.15) (人)	開業前後1ヶ月 (R6.3/R5.2) 比較 (A)/(B) %	前年同期 (R6.3/R5.3) 比較 (A)/(C) %	
来訪者数	金ヶ崎緑地	観光誘客課	12,099	4,586	11,809	263.82%	102.46%	・開業一年前にもイベントが集中して行われており、今年度と同程度の集客があった。 ・また、開業一年前は期間中にクルーズ船が寄港し、入込客数を押し上げたが、今年度は4/6に予定していたクルーズ船寄港が中止となった。 ・上記と今年度の開業効果による入込客数の増加と相殺する形となり、結果として前年同期比較では微増となった。
	赤レンガ倉庫	観光誘客課	14,260	7,024	9,292	203.02%	153.47%	
	鉄道資料館	観光誘客課	6,521	2,721	2,615	239.65%	249.37%	開業により多くの鉄道ファンが訪れたため、鉄道資料館は特に来館者が集中した。
	ムゼウム	入道の港発信室	4,899	1,444	2,606	339.27%	187.99%	
	観光案内所(オルパーク)	観光誘客課	3,174	1,532	2,028	207.18%	156.51%	
	ちえなみき	まちづくり推進課	57,268	26,428	27,720	216.69%	206.59%	
	リラポート	観光誘客課	14,410	12,377	12,444	116.43%	115.80%	開業直後は新幹線駅目当てに訪れる客が多かったことから、駅から離れた立地のリラ・ポートについては影響が少なかったと考えられる。
	計		112,631	56,112	68,514	200.73%	164.39%	
利用者数	コミュニティバス	交通政策課	26,298	25,882	21,979	101.61%	119.65%	開業前後1ヶ月比 休日 151.70% 平日 92.14% (春休み期間との比較となるため減。(例年同様の傾向))
	ぐるっと敦賀周遊バス	交通政策課	10,476	5,072	4,883	206.55%	214.54%	
	シェアサイクル	交通政策課	1,650	801	729	205.99%	226.34%	
	計		38,424	31,755	27,591	121.00%	139.26%	

※この調査は開業効果を短期的に見たものです。今後も引き続き調査を続け、長期的な推移を確認していきます。

<参考>

東西連絡バス(東⇄西)	交通政策課	(R6.3.17~4.15) ※開業日除く。		備考1 (開業日 乗車人数)	備考2 (運行状況)	・東⇄西: 65.7% ・西⇄東: 34.3% (全休利用者数: 1830人) ※開業日除く。 ※利用者の意見として、ホームから降りた際に西口・東口に何があるのか分らないや東と西を結ぶ通路が欲しいなどの意見があった。
		平日平均(人)	土日平均(人)			
		62	127	16日: 802人	3.16~3.31: 全日運行(36便) 4月以降: 土日祝のみ運行(36便/日)	



その他の関係様式

行政視察結果報告書

行政視察結果報告書

令和 6 年 10 月 21 日

高島市議会議長
廣本昌久様

会派名 至誠会
会派代表者名 廣部真造

行政視察の結果について（報告）

行政視察の結果について下記のとおり報告します。

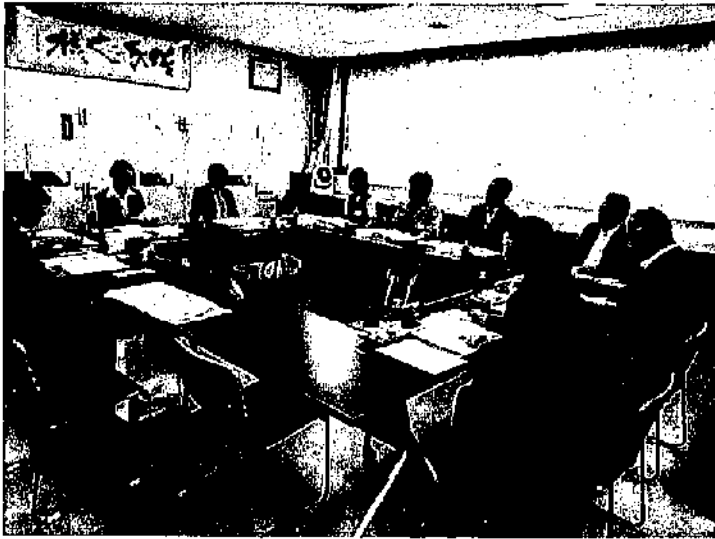
記

- 1 期 間
10 月 17,18 日
- 2 視 察 先
大分市碩田学園
熊本県：熊本地震震災ミュージアム、熊本城
- 3 視察目的
大分市で義務教育学校が新設された経緯や課題等を本市で活用するため。
熊本震災での教訓を研究するため
- 4 調査内容
碩田学園では、施設の整備状況やその狙い。運営後に新たに浮上してきた課題について研究した。
熊本地震の震災ミュージアムでは、展示内容や来訪者の感想等を担当者から聞き取りをした。熊本城では、過去に視察した際の状況と復旧状況を比較できるように外観を視察した。復旧途中状況を観光資源として活用する旨を聞いており、現状を確認した。
- 5 参 加 者
廣部真造、河越安実治、中川あゆこ

《所感》

3つの小学校と1つの中学校が集まった義務教育学校として新設された碩田学園。碩田学園では、設計段階における整備計画とその目的の確認をしたかったが、当時の状況を知る職員が居らず、会議録等による確認に留まった。校舎は6階建てで、室内温水プールもあった。教員の各階の移動負担を軽減するための教員ステーションを設置するなどの工夫もあった。各階には英語専用教室があり、生徒が移動をする仕組みをとっていた。英語担当教員が、次の授業の準備をしやすくするための工夫であった。当学園では1年生から9年生まで英語に関する授業を独自に制度化しているためである。各階にはオープンスペースが設置され、様々な活動に利用され、学年集会も実施されているとのことでした。PTA活動の部屋もあり、積極的に利用をされているとのことでした。地域連携室は、校舎内とは途絶できる構造になっており、時間、曜日を問わずに事前申請により利用できる工夫がされていました。ランチルームでは学年が異なる児童生徒が交流できるように設けられており、児童生徒の成長に合わせた教育の場となっていました。120メートルにもなるアトリウム（廊下）があり、児童生徒の交流の場であり、時には教職員が児童生徒たちに何かを披露するスペースとしても活用されています。館内を見学している時に出会った児童生徒の全員が気持ち良い挨拶をしてくれたのが印象的でした。学園長にでさえも、人懐っこく挨拶をする様子は、日頃からの指導教育の結果だと感じました。特別支援学級が1階にあり、シャワー室や洗濯機等の設置もされており多様な事態にも対応できる工夫がありました。ただし、他の児童生徒や教職員との接点を持つことが困難になっていることが運営後に判明した課題であると学園長からの話がありました。小中一貫教育校に求められる教育環境について、ハード面とソフト面において参考になる視察研修となりました。

熊本震災遺構 震災ミュージアム（KIOKU）では、押しつぶされた自動車が展示されていたり、発災当時の様子短編映像が上映されたりしており、改めて熊本地震の凄まじさを痛感しました。施設の方のお話によると、熊本地震を皆さんの記憶から忘れ去られないようにするためにも震災ミュージアムを建設したとのことでした。地震災害の悲惨さだけでなく、防災対策や受援対策の必要性を理解していただければとのことでした。当時のニュース映像では扱われていなかったような場面など知ることが出来、被災地での惨状から現在の復興中の変化を知ることが出来る施設であると感じました。熊本城では、6年前との違いを見ることが出来ました。その当時説明していただいた職員さんが、復旧途中も観光資源として活用していく予定だとの言葉通り、観光客も多くありました。天守閣の外観は被災前の様子でしたが、そのほかの多くは6年前と変わっておらず、完全なる復旧はまだまだ時間が必要だと感じました。

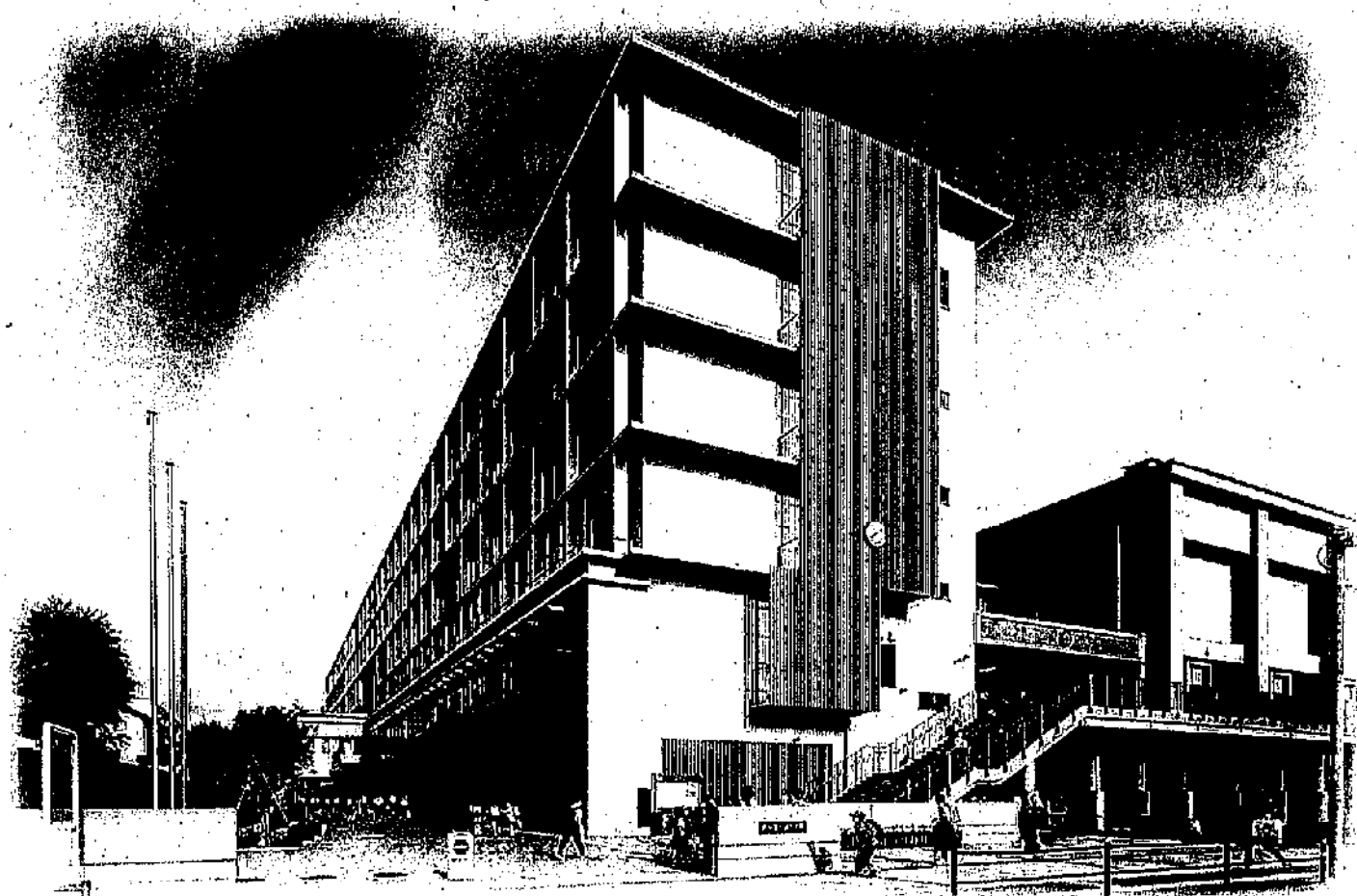


令和6年度

学校要覧

義務教育学校

大分市立碩田学園



平成29年 4月、

荷揚町、中島、住吉の各小学校と碩田中学校がひとつになり、
大分県初の義務教育学校「大分市立碩田学園」が開校しました。

碩田学園が目指す教育

本校の教育目標

夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成

9年間の主体的、協働的な学びを通して、

一人一人の夢や希望、志をはぐくむ学校づくりを推進します。

つくりあげる

創造

校訓

自主

協働

すすんで

いっしょに

生きる力(知・徳・体)を育てるとともに、
義務教育9年間の連続性を重視した教育を推進します。

【めざす児童生徒像】



グローバル社会に生き抜くために、
未来の「情熱」に火をくわす力をもった児童生徒



あらゆる状況の中で、互いに協力して
生きる力をもった児童生徒



仲間とともに活動し、支えあい、助け
あう豊かな心をもった児童生徒

知恵と力と心を合わせて

【1】9年間を見通した教育目標のもと、全職員が力を合わせて、児童生徒の指導にあたります。

- ・教育区分を「前期(4年)・中期(3年)・後期(2年)」とし、各期ごとの発達の段階に応じた教育を行います。
- ・中期において5・6年生に、一部教科担任制での指導を導入し、7年生への円滑な接続を図ります。

義務教育9年間を見通した系統的な指導

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
----	----	----	----	----	----	----	----	----

★前期・定着期
〈学びの基本〉

★中期・活用期
〈論理的な思考〉

★後期・発展期
〈個性の伸長〉

・地域を愛し、
世界に羽ばたく
人材の育成。

・生涯にわたって、
学び続ける基礎を
培う教育の推進。

【2】日常的な異学年交流で、思いやりの心を育てます。

- ・豊かな人間性や社会性を育むため、学級や学年ごとの活動に加え、期別や全校の行事の際に、縦割り班活動を計画的に実施するなど、日常的な異学年交流等による「心育て」を充実します。

【3】コミュニケーション能力を高める教育を充実します。

- ・「えいごコミュニケーション・外国語」をはじめ、ことばを週じて、よりよく分かり合い高め合うことができるよう、各教科において、お互いの考えを伝えあい討議しながら深め合う活動を充実します。

◆特色ある教育活動

- ①全学年で英語の授業 ③4年生から児童生徒会活動の実施 ⑤系統的な生活・学習指導
②日常的な異学年交流活動 ④中期からの一部教科担任制 ⑥期別集会の実施 ⑦防災教育の充実



◆年間授業時数

	前 期				中 期			後 期	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
国 語	306	315	245	245	175	175	140	140	105
社 会			70	90	100	105	105	105	140
算数・数学	136	175	175	175	175	175	140	105	140
理 科			90	105	105	105	105	140	140
生 活	87	90							
音 楽	68	70	60	60	50	50	45	35	35
図画工作・美術	68	70	60	60	50	50	45	35	35
家庭・技術・家庭					60	55	70	70	35
体育・保健体育	102	105	105	105	90	90	105	105	105
えいごコミュニケーション・外国語	20	35	35	35	70	70	140	140	140
道 徳	34	35	35	35	35	35	35	35	35
特別活動	34	35	35	35	35	35	35	35	35
総合的な学習の時間			70	70	70	70	50	70	70
総時間数	855	930	980	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015

◆週時程表

	前期 (1~4年)	中期 (5,6年)	中期・後期 (7~9年)
スキルタイム 朝学習	8:05~8:20	8:00~8:20	
朝の会	8:20~8:30		
1校時	8:35~9:20	8:40~9:25	8:40~9:30
2校時	9:25~10:10	9:35~10:20	9:40~10:30
中休み	10:10~10:25		
3校時	10:30~11:15		10:40~11:30
4校時	11:20~12:05	11:25~12:10	11:40~12:30
給食	12:05~12:45	12:10~12:45	12:30~13:00
昼休み	12:45~13:25		13:00~13:25
清掃	13:25~13:40		
5校時	13:50~14:35		13:50~14:40
6校時	14:40~15:25	14:45~15:30	14:50~15:40
帰りの会	15:25~15:40	15:30~15:45	15:45~16:00
完全下校	15:50	15:55	16:10

◆児童生徒数・学級数

	児童生徒数	学級数
1年	74	3
2年	78	3
3年	82	3
4年	94	3
5年	99	3
6年	91	3
特別支援	35	6
小計	553	24
7年	99	4
8年	107	3
9年	116	3
特別支援	23	4
小計	345	14
総合計	898	38

(R6. 4. 23現在)

◆活発で楽しい部活動(7・8・9年生)

・陸上 ・野球 ・サッカー ・ソフトテニス
・バスケットボール ・柔道 ・吹奏楽 ・美術
・水泳 ・バドミントン

◆校章の由来



校章は、児童生徒に図案を募集し、その中の1点をデザイン化しました。
「碩田」は、大分の古名である「碩田(おおきた)田」に由来します。また、
「碩田」は、「優れている」、「充実している」という意味があります。このよう
な歴史や伝統のある「碩田」の文字を日本の伝統色と家紋の「組み合い
角」を用いてデザイン化することにより、いらいの学校、家庭、地域社会の強い
絆を表現しています。

校歌

作詞 三浦 亨二
作曲 河野 敦朗

一 二重の海を臨む 碩田の地

幾千の思いを胸に

新しき文化を創らん

真理を求め 支え学びあう

ああ 強く かしく たくましく

我らの学園 碩田学園

二 由布の高峰を仰ぎ 豊後の地

気高き心磨きあい

新しき道を拓かん

伸びゆく力 ともにはぐくみ

ああ 元気に やさしく じつぞき

我らの学園 碩田学園

三 黄金なす沃野 流れる大河

掲げる理想より高く

新しき歴史を築かん

深き絆 永久に誓いあい

ああ 未来へ羽ばたけ この地から

我らの学園 碩田学園

校舎・教室等配置図

◆特徴的な教育施設

児童生徒の発達の段階や動線等を配慮したユニバーサルデザインとなっています。

⑪オープンスペース

3F～6Fに設置し、児童生徒の日常的な交流や学習活動を円滑に行います。



⑩各期別の英語専用教室(英1～4)

3F～6Fに設置し、英語教育の指導の充実を図ります。



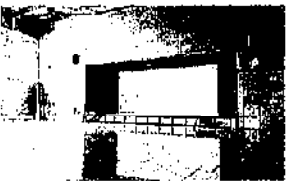
⑨ランチルーム

縦割り班での交流給食や食育の場としてはもちろん、合同授業や地域交流スペースとしても活用します。



⑦小アリーナ ⑧大アリーナ

発達の段階に対応した体育施設です。大アリーナでは、1000人規模の集会が可能です。



⑤アトリウム

校舎とアリーナが一体となった、児童生徒の交流空間です。



④交流ラウンジ

閉校となった各小学校と中学校の伝統と歴史を引き継ぐ空間を設置しました。



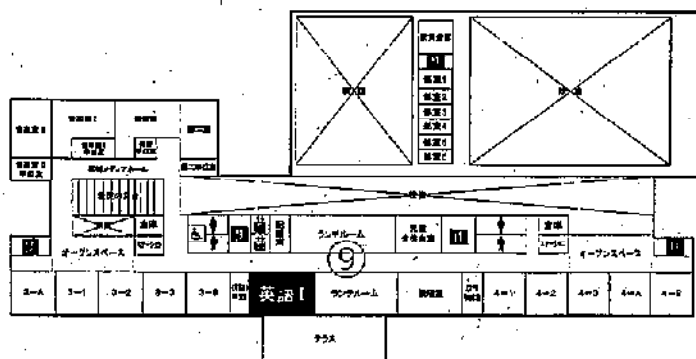
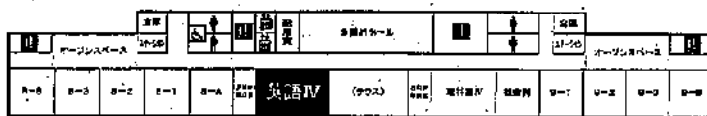
③可動式の屋内温水プール

水深はデジタル表示され、採暖室も完備されています。

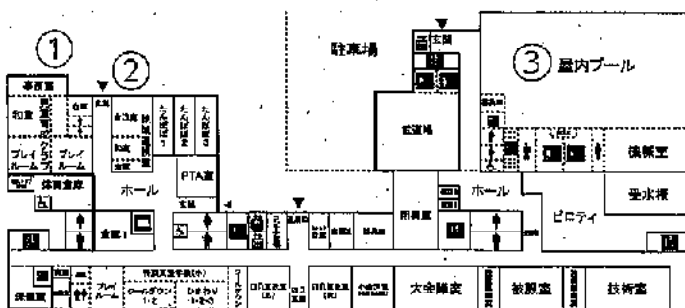
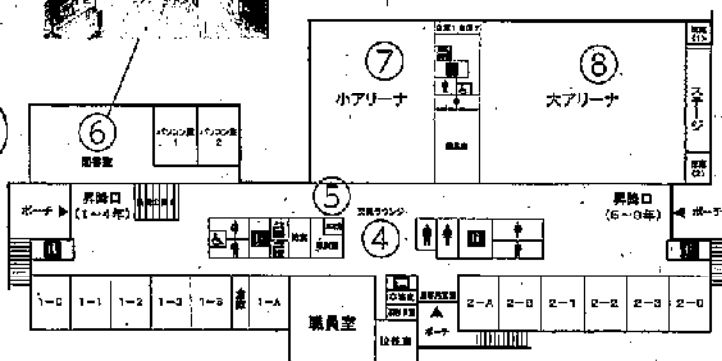


②地域連携室

学校と地域が交流する地域連携室を設置しました。



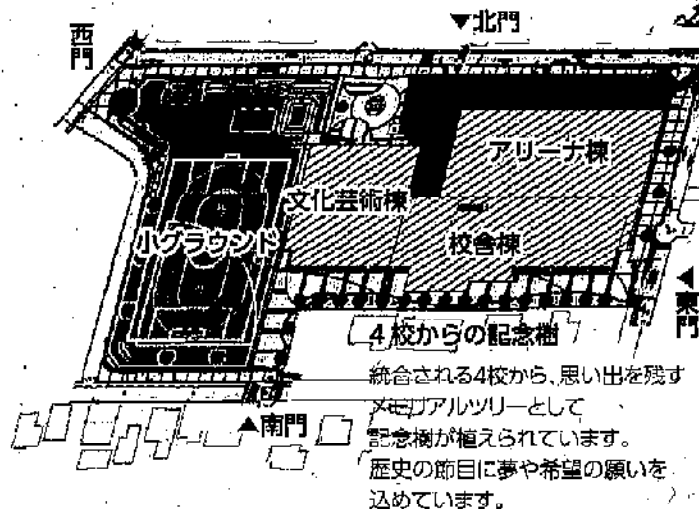
⑥メディアセンター 図書室とPC室を併設



①児童育成クラブ 新制度に対応し、校舎内に設置しました。

全体配置図

- 【敷地面積】 21,973㎡(校舎側)
15,386㎡(大グラウンド側)
37,359㎡(合計)
- 【構造】 鉄骨造(校舎棟、文化芸術棟)
鉄筋コンクリート造(アリーナ棟)



【延床面積】
21,711㎡

【規模】
地上6階(校舎棟)
地上3階
(文化芸術棟、アリーナ棟)

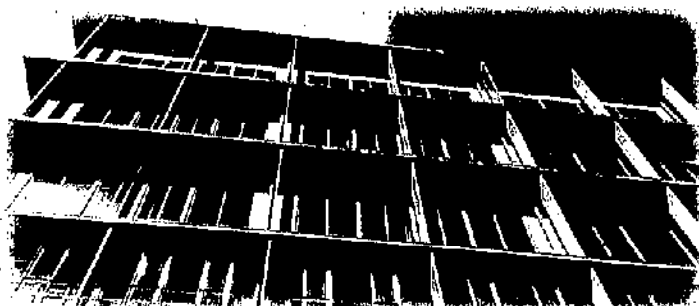
地震・津波などの災害への備え

- ①地域の防災拠点となるため校舎棟では、6階建てを計画しました。
- ②建設費を削減し、地震に強い施設としての構造上の技術見直しを求めています。建設費を削減し、地域の防災拠点として計画されています。
- ③校舎内の3階に避難する想定した場合、避難人数は、3,800人です。
- ④防災備蓄倉庫(アクト棟裏側)を設置しています。
- ⑤防災備蓄設備を確保し、緊急時には避難場所として利用します。
- ⑥水源地(砂防ダム)には、津波対策を講じており、津波発生時に水源地の水の流出が防止されます。

【これまでの歩み】

碩田中学校区では、荷揚町・中島・住吉の各小学校及び碩田中学校の統合再編による、施設一体型小中一貫教育校の整備に取り組んできました。

- | | | |
|-------------|-----|---|
| 平成24年 | 3月 | 「大分市立小中学校適正配置基本計画」を策定 |
| | 8月 | 「碩田中学校区適正配置地域協議会」を組織(15回に及ぶ協議会を実施) |
| 平成25年 | 12月 | 地域協議会が教育委員会へ「報告書」を提出(3小学校統合の合意が形成される) |
| 平成26年 | 2月 | 「碩田中学校区適正配置実施計画基本方針」を策定(新設校の位置や基本理念等をまとめる) |
| | 6月 | 新設校の設計を開始 |
| 平成27年 | 2月 | 「碩田中学校区適正配置実施計画推進方針」を決定(新設校の特色ある教育活動や特徴的な教育施設などの概要並びに開校準備などに関する基本的な考えをまとめる) |
| | 3月 | 新設校の設計が完了 |
| | 4月 | 3校区の地域関係者やPTA並びに教育委員会等で「碩田中学校区新設校開校準備委員会」を発足 |
| | 9月 | 新設校建設工事を着工 |
| 平成28年 | 6月 | 学校名を「碩田学園」とする条例を制定 |
| 平成29年 | 4月 | 義務教育学校「大分市立碩田学園」が開校第1回「入学式」 |
| 平成30年 | 3月 | 第1回「卒業証書授与式」 |
| | 4月 | 第2回「入学式」 |
| 平成31年(令和元年) | 3月 | 第2回「卒業証書授与式」 |
| | 4月 | 第3回「入学式」 |
| 令和2年 | 3月 | 第3回「卒業証書授与式」 |
| | 4月 | 第4回「入学式」 |
| 令和3年 | 3月 | 第4回「卒業証書授与式」 |
| | 4月 | 第5回「入学式」 |
| 令和4年 | 3月 | 第5回「卒業証書授与式」 |
| | 4月 | 第6回「入学式」 |
| 令和5年 | 3月 | 第6回「卒業証書授与式」 |



交通 ●JR[大分駅]…下車 2km 車で10分



義務教育学校 大分市立碩田学園

〒870-0048
大分市碩田町二丁目5番60号
TEL (097) 534-6359
FAX (097) 534-6344
ホームページ:
<http://olta-city.olta-ed.jp/gimu/sekiden/>

滋賀県高島市議会 至誠会

行政視察



4月11日(木) 第8回入学式



4月19日(金) おおきたっ子出合いの会



5月1日(水) 1・9年 ダンス練習



9月27日(金) II期児童生徒会役員委嘱式

令和6年10月17日(木)

大分市立碩田学園

滋賀県高島市議会 至誠会 行政視察

1 日時：令和6年10月17日（木）13：30～15：30

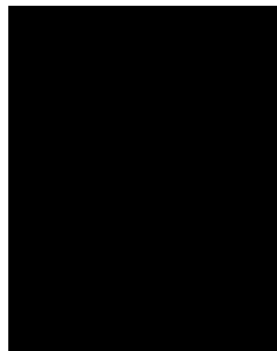
2 会場：校長室

3 参加者

滋賀県高島市議会 至誠会 廣部 真造 様
河越 安実治 様
中川 あゆこ 様

学校教育課
学校施設課

碩田学園 校長
副校長
教頭
教頭



4 日程：

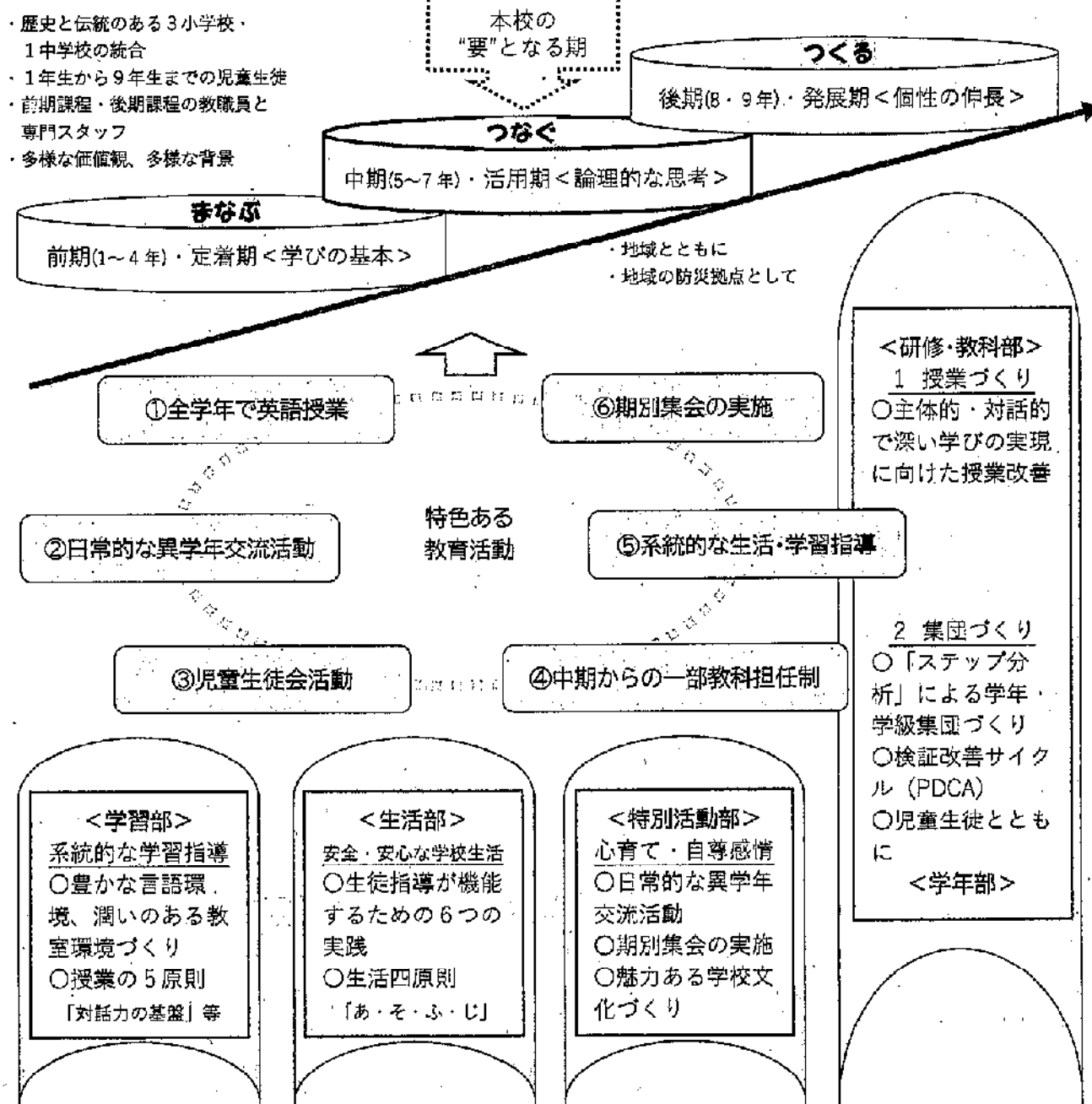
- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1 開会行事 | 13：30 ～ 13：40 |
| (1) 校長あいさつ | |
| (2) 至誠会代表あいさつ | |
| (3) 学校 学校教育課 学校施設課 議会事務局職員 自己紹介 | |
| 2 概要説明 | 13：40 ～ 14：30 |
| (1) 学校の概要 | |
| (2) 質問への回答・質疑 | |
| 3 施設案内 | 14：30 ～ 15：20 |
| 4 閉会行事 | 15：20 ～ 15：30 |

【校 訓】 自主(すすんで) 協働(いっしょに) 創造(つくりあげる)

【学校教育目標】 夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成

【目指す児童生徒像】

- グローバル社会に主体的にかかわり、未来を創造的に切り拓いていく確かな学力をもった児童生徒
- 変化する社会の中で、自主的に行動できる、たくましく健やかな体をもった児童生徒
- 仲間とともに協働し、支え合い、助け合う豊かな心をもった児童生徒



<本校の強み>

- 1 義務教育9年間のつながり(系統性・連続性)
- 2 教職員間(前期・後期課程)の相互理解・融合

9年間の主体的・協働的な学びを通して、一人一人の夢や希望、志をはぐくむ学校づくりを推進

「同僚性」を高める！ 学び合う風土づくり！

率先垂範・協働の姿

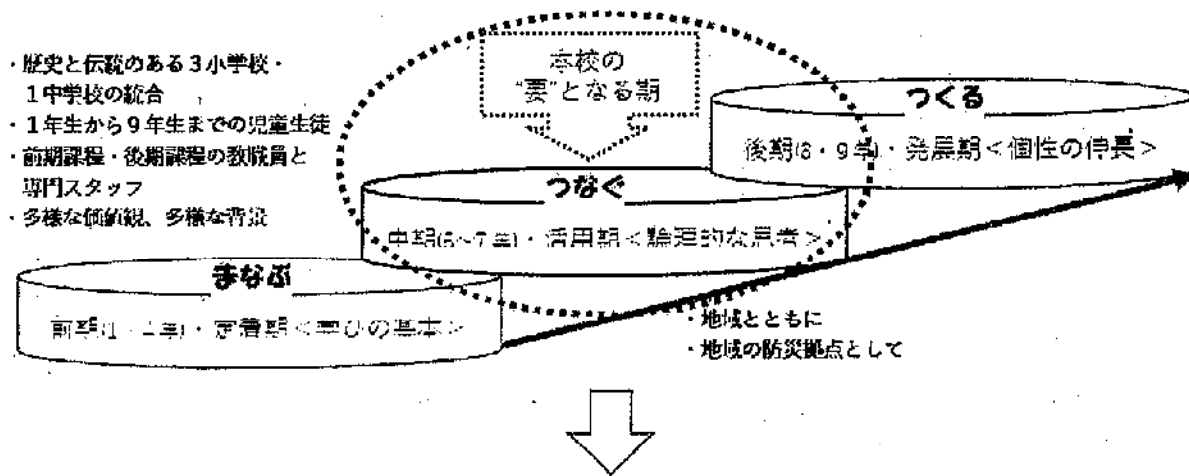
言葉を大切に

傾聴の姿勢・肯定的評価

“新しい義務教育9年間を創る”

目指す児童生徒像の追求 ～ 三期の教育区分を生かして ～

【目指す児童生徒像】		
○グローバル社会に主体的にかかわり、未来を創造的に切り拓いていく確かな学力をもった児童生徒 ○変化する社会の中で、自主的に行動できる、たくましく健やかな体をもった児童生徒 ○仲間とともに活動し、支えあい、助けあう豊かな心をもった児童生徒		
各期別の指導の重点		
前期（1～4年）・定着期 ＜学びの基本＞	中期（5～7年）・活用期 ＜論理的な思考＞	後期（8・9年）・発展期 ＜個性の伸長＞
・学習規律の定着と基礎的・系統的事項の習熟 ・自治の尊厳と規範意識の育成 ・基本的な生活習慣の定着と運動への意欲の向上	・身に付けた力の活用と論理的な思考力の育成 ・集団の機能を生かす中で、自ら考え、判断し、行動する能力の育成 ・基盤しい運動習慣・生活習慣の確立	・自ら学ぶ態度と他と関わり合った課題追究力の育成 ・下級生の模範となる高い意欲と実戦力の育成 ・自らの課題を自覚し、改善する能力の育成



<“要”としての中期>

- 義務教育学校としての“良さ・強み”を創出し、目指す児童生徒像を追求していくために、三期の教育区分（前期：4年、中期：3年、後期：2年）を生かしていく。中期を“要”の期とする。
- 中期は「活用期＜論理的な思考＞」という位置付けから、「つなぐ」をキーワードに5年から7年まではもとより、上下の期（前期・後期）と自在につながり、関わりながら、また、学びの対象を地域まで広げるなど多様な学びを保障していく。
- 教科の専門性を生かした一部教科担任制を5年・6年で推進していく。また、可能な範囲で後期課程教員による乗り入れ授業も導入していく。児童生徒にとって、多くの教員との関わりが増え、見守られるとともに後期課程への円滑な接続となる。
- 各学年の「ステップ分析」をもとに「中期」学年に「PDCA サイクル」を段階的に取り入れ、自治的な学年・学級集団づくり、学びに向かう集団づくりを目指していく。特に中期のリーダー学年となる7年は、中期活動の総括となる学年であることから「PDCA サイクル」の質を高めていく。このような取組を通して、後期8年・9年での学習・生活面での伸長（確かな学力、やさしさ・思いやり、自律的な態度等）や全校リーダーとしての多様な視点や考え方の獲得、創造的な活動につながることが期待できる。
- 児童生徒との関わりを通して、前期課程・後期課程の教員間の相互理解・融合が最も図られる期であり、このことが義務教育学校としての教育の推進に資すると考えられる。

現在の状況

1 人的環境

(1) <県費負担教職員>

職名等	後期課程	前期課程
校長	1	
副校長	1 ※特別加配	
教頭	1	1
主幹教諭	2 ※うち1名は特別加配	
指導教諭	1 ※特別加配	1
教諭	18 ※うち1名は特別加配	20
養護教諭	1	1
栄養教諭	1 ※加配	
臨時講師	3 (定員内3)	5 (定員内3 産休代替2) ※うち1名教科担任推進加配
学校事務職員	2	

(2) <市費負担職員(会計年度任用職員)>

学校主事	週4日勤務(7時間45分)	2
補助教員	週5日勤務(6時間)	4 (前期3名 後期1名)
学校図書館支援員	週4日勤務(6時間)	1
スクールライフサポーター	週4日勤務(7時間45分)	1
日本語指導員	週4日勤務(7時間45分)	1
スクールサポートスタッフ	週4日勤務(6時間)	2
給食配膳員	週5日勤務(4時間)	2

(3) 児童生徒数(令和6年10月1日現在)

	学年	学級数	児童生徒数 (特支含む)	特別支援学級	
				学級数	児童生徒数
前期	1年	3 (30人以下学級)	77	知的 3学級 自閉症・情緒 3学級	2
	2年	3 (30人以下学級)	85		9
	3年	3 (35人以下学級)	87		5
	4年	3 (35人以下学級)	95		1
中期	5年	3 (35人以下学級)	106	知的・2学級 自閉症・情緒 2学級	8
	6年	3 (40人以下学級)	99		9
	7年	4 (30人以下学級)	101		3
後期	8年	3 (人以下学級)	116		10
	9年	3 (人以下学級)	126		10
合計		28学級	892	10学級	57

2 物的環境

<教室棟>

1階	技術室 家庭科室 大会議室 小会議室 更衣室 特別支援学級 保健室 ピロティ（建屋内の大型倉庫）
2階	校長室 副校長室 職員室 事務室 印刷室 1年教室 2年教室 アトリウム 交流ラウンジ 表現の舞台
3階	3年教室 4年教室 英語教室 調理室 ランチルーム
4階	5年教室 6年教室 英語教室
5階	7年教室 特別支援教室 保健室 相談室 理科室（2） 英語教室
6階	8年教室 9年教室 理科室 英語教室

<文化芸術棟>

1階	特別支援学級 地域連携室（育成クラブ）
2階	メディアセンター（図書室 旧コンピュータ室（2））
3階	音楽室（2） 図工室 美術室

<アリーナ棟>

1階	武道場 可動式の屋内温水プール
2階	大アリーナ 小アリーナ
3階	倉庫（備蓄倉庫もあり）

<屋外>

小グラウンド 大グラウンド プロムナード いこいの広場 受水槽 防災用ガス倉庫

【特徴】

- ① 1・2学年・図書館に小上がりの設置 1・2学年に水道、図書スペースの設置
- ② 3年生以上教師ステーションと多目的スペースの設置
- ③ メディアセンター（図書館に2クラス分の学習スペース、旧パソコン室が2室）
- ④ 2階 交流ラウンジ・アトリウム、3階ランチルーム（調理室隣接）、6階多目的ホール
- ⑤ 4か所の英語教室・理科室
- ⑥ 全天候型屋内プール（可動式床） 大小アリーナ
- ⑦ アトリウムと表現の舞台（音楽室・美術室と近い）
- ⑧ 津波を想定し、壁や天井等の落下や剥離のための工夫・管理室を2階に設置
- ⑨ 防災行政無線放送機器を屋上に設置
- ⑩ （地域交流室や放課後育成クラブも同じ建物内に設置）

3 教育課程等

○えいごコミュニケーション科の新設（教育課程特例校ではない）

1年は生活科から15時間＋学校裁量5時間の合計20時間

2年は生活科から15時間＋学校裁量20時間の合計35時間

3・4年は外国語活動、5・6年は外国語科の時間を流用

○一部教科担任制（乗り入れ授業）

3 年	4 年	5 年	6 年
道徳（主幹教諭） えいご（専科教員）	理科（主幹教諭） えいご（専科教員）	理科（専科教員） 英語（専科教員）＋ （乗り入れ）	理科（専科教員） 英語（専科教員）＋ （乗り入れ） 音楽（乗入れ） 国語（一部単元乗入れ）

○異学年交流（別紙）

○校時表

4 その他

⑦ 5 年生から制服

○学校運営協議会 委員 11 名 4 月 8 月 2 月に開催

○部活動

学校部活動 10 社会体育 2

前期課程で部活動顧問 1 名

異学年交流活動 年間計画

区分	活動	月	前期				中期			後期		備考
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	
児童生徒会活動	体育大会	5月	○	○	○	●	○	○	●	○	●	
	児童生徒会選挙	7月					○	●	●	●	●	6～9年は副会長選挙実施
	碩煌祭	11月	○	○	○	●	○	○	●	○	●	
	児童生徒会選挙	1月				○	●	●	●	●		4年は見学参加
	9年生に贈る会	2月	○	○	○	○	○	○	○	●	○	
	児童生徒大会	3月				○	○	○	○	●		4年は見学参加
	専門委員会	毎月					○	○	○	○	●	
期別班活動	対面式・結成式	4月	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
	お見知り遠足											
	なかよし遠足	11月	○	●	○	●	○	●				1・2・3・4・5・6年別々に実施
	期別班引継ぎ式	12月	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
	期別班解散式	3月	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
	期別班そうじ	学期末	○	○	○	○	○	○	○	○	●	学期末に1回ずつ
節目の式	前期遊び集会（朝活動）		○	○	○	●						
	入学式	4月	○						●		●	
	前期修了式	3月			○	●						卒業式（5・6）
	中期修了式	3月					○	○	●			
	卒業式	3月					○	○	○	○	●	
宿泊活動	前期課程修了式	3月						●				
	集団宿泊体験活動						●	●	●	●		学年別開催
集会活動												
	平和集会	8月	○	○	○	●	○	○	●	○	●	期別開催
	全校集会	毎月	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
	期別集会	毎月	○	○	○	●	○	○	●	○	●	
年交流活動												
	クラブ活動	通年				○	○	●				年6回程度実施
	壁画制作	10月					○	○	○	○	●	
	新5年生を迎える会	3月				○	●	○				
	選手激励会	6・9月					○	○	○	○	●	
	前期リーダー引継の会	3月			○	●						

○：活動学年 ●：活動の中心学年

質問に対する回答

統合に係る総予算と内訳について

＜学校施設課＞

⇒資料②をご覧ください。

何年前から統合を計画されたのか、また予定通り進んできたか。

＜学校施設課＞

⇒平成24年3月に計画が策定され、予定通り完了いたしました。資料①をご覧ください。

保護者説明会ではどのような質問、要望、意見があったか。

＜学校教育課＞

【質問】

- ・制服はどうなるのか。
- ・卒業式や各種行事はどうなるのか。
- ・英語科の導入や小中一貫教育校になることで、通塾など家庭で指導すべきことが別途必要になるのか。
- ・特別支援学級の設置について、どう考えているのか。（難聴学級が小学校に設置されている。）
- ・一体型になることで、教職員数はどうなるのか。
- ・一体型になり、時間割、休憩時間、教室・グラウンド移動などの動線、チャイム等はどうするのか。
- ・修学旅行の実施は、どうなるのか。

【要望・意見】

- ・前期でも教科担任制や交換授業を行ってはどうか。
- ・登下校時の防災面や通学環境面への不安に対する具体的な対応策はどうするのか。

＜学校施設課＞

⇒防災に関する質問（津波避難所として指定されることについて）がありました。

学校内で統合の協議会・委員会等が立ち上がったと思いますが、そのメンバー構成について

＜学校施設課＞

⇒平成24年8月 碩田中学校区適正配置地域協議会を組織し、地域の代表者・保護者・教育委員会関係者の計38名で構成されました。

平成27年4月 碩田中学校区新設校開校準備委員会を発足し、自治委員校区会長、PTA会長、小中学校長、アドバイザー、教育委員会等で構成されました。さらに3つの専門部会に分かれ、協議を行いました。

協議会(委員会等)で統廃合にあたり難航した案件はあるか。

<学校教育課>

【地域の統廃合の反対】

- ・登下校時の防災面、通学環境面

<学校施設課>

⇒ありません。

通学手段(バス・電車・自転車)の見直しはどのようにされたか。

<学校教育課>

原則徒歩通学 通学区域が徒歩圏内

新築・改築にかかわらず、グラウンド、図書館、体育館、プール等の施設はどのように変わりましたか。

<学校施設課>

グラウンド…小学生用と中学生用のグラウンドを建設しました。

- ・図書館…コンピュータ室を隣接させ、メディアセンターとして一体的な活用を図るよう配置をしております。低学年、高学年専用の学習専用スペースを確保しております。

体育館…児童生徒の発達段階にあわせて、大小別々のアリーナを配置し、大アリーナは全校の児童生徒が収容可能な面積となっております。

- ・プール…屋内にプールを1槽設置しております。体格が違う児童生徒が使用するため、プールの水深調整が行える可動床式とし、授業を円滑に行うという観点から温水化を採用しました。

- ・調理室…自動昇降式の調理台を設置しております。

統合にあたり教育委員会として、どのようなところに一番気を使われたか。

<学校教育課>

- ・登下校時の防災面や通学環境面 通学路の確認
- ・隣接校選択制及び校区外就学

<学校施設課>

⇒統合後の建設場所や防災面、4校の歴史を大事にすることについて、地域の方々と納得するまで議論しました。

統合後にわかった改善すべき点がありましたら教えてください。

<学校施設課>

⇒必要な所室を配置していますが、施設のコンパクト化が課題です。

<碩田学園>

◎開校準備室の継続

開校後1年間は、学校運営しながら改善できるように準備室設置を継続するとよかった。

○中期(5・6年)の校時

開校当時、中期の5・6年は7年に合わせて50分授業をしていましたが、発達の段階から再検討し45分に変更しました。

統合後、保護者から何か意見は上がっていますか。

<碩田学園>

○市議会における質問等

統合前は、通学路の整備、登下校時の見守り、特色ある教育活動、制服等の経済的負担等について、議会で質問がありましたが、開校後、主な質問はでていません。

○新しい教育システム等への期待と戸惑い

「新しい学校システムに期待している」という声、「学校の組織や運営について、よく考えられて運営されている」という声がある一方、「期別の区割り（前期・中期・後期）になかなか馴染めない」や登下校の安全面等について心配する声もありました。

○豊かな心の育成に効果

全校合同行事や学年を超えて行う行事の取組は、子どもたちの優しさや思いやりなどの豊かな心の育成に効果がある、また、各期のリーダー学年に「リーダー」としての意識が育っているとの意見がでています。

○専門性のある教員による指導

専科教員や後期からの乗り入れ等、早期から専門の教員による授業を受けられるというメリットがあります。

○設備

新設校なので、校舎や設備が新しく、充実しています。

△地域とのつながりの希薄化

統合前は小学校と自治会や地域と密接な関係があり、開校に向けた協議会や、児童生徒も地域と共同の活動があったりしましたが、コロナ禍影響もあり徐々に関係が薄れてきた面もあります。

△小学校との比較

6年で卒業しないので、卒業式も卒業アルバムもないことを残念に思っています。

□段差の軽減とそれに伴うデメリット

小中一貫なので、中1ギャップやストレスは少ないが、気分の切り替えが難しいと感じています。

子どもたちの反応は統合前と後でどのような変化が見られるか。

<碩田学園>

「自分たちが学校を創る」という意欲

開校当初は、4校が統合しての新しい制度の学校という戸惑いを感じる子どももいたようですが、1期生が8年生になり、システムが子どもたちにとって「当たり前」になってきたことで戸惑いの声はなく、自分たちが、碩田学園の「歴史を創る」という意欲とエネルギーを感じます。

○思いやりの心の醸成

後期課程の生徒が、お迎え遠足、体育大会、碩煌祭を1～9年で取り組むことで前期課程の児童のことを考えて行動するようになりました。入学式当日の1年生のお世話を9年生がすることでも幼い者を慈しむ心が育まれています。

○目標の姿が具体的に見えることの効果

後期課程の生徒に関しては、1～6年生とともに生活することで、目標となる姿を目指すため、服装、頭髪等で指導が必要な生徒はほとんどいません。

前期課程の児童に関しては、ゴールの姿を見ることができ、(4年・7年・9年)意識を高くもって生活しています。

5・6年生に関しては、7～9年生の姿が見えることで、5・6年生の態度や意識が次の段階に向いており、他校に比べ落ち着いています。

○学力の向上

学習に関しては、学びの連続性や指導事項の系統性を考慮した指導や乗り入れ授業等により、年々学力も向上し、進路実績にも反映されています。

(全国学力学習状況調査・大分県基礎・基本定着状況調査)

○段差の軽減

7年生での新規不登校は減少しています。

一貫教育校として施設設計において工夫された点は何でしょうか、またその理由は何ですか。

<学校施設課>

⇒大分県初の義務教育学校であったため、広島県府中市の「府中学園」や福岡県福岡市の「舞鶴小中学校」を視察し、この2校を参考に施設設計を行いました。一体的に交流や発表会ができる空間としてつくられた「表現の舞台」や教師ステーションが特徴的です。

領収証の無い施設のため入館証を首から下げた写真を示します

チケット料金表

券種	料金
大人	500円
県外中高生	400円
県外小学生	300円

※未就学児、熊本県内小・中・高校生は無料です

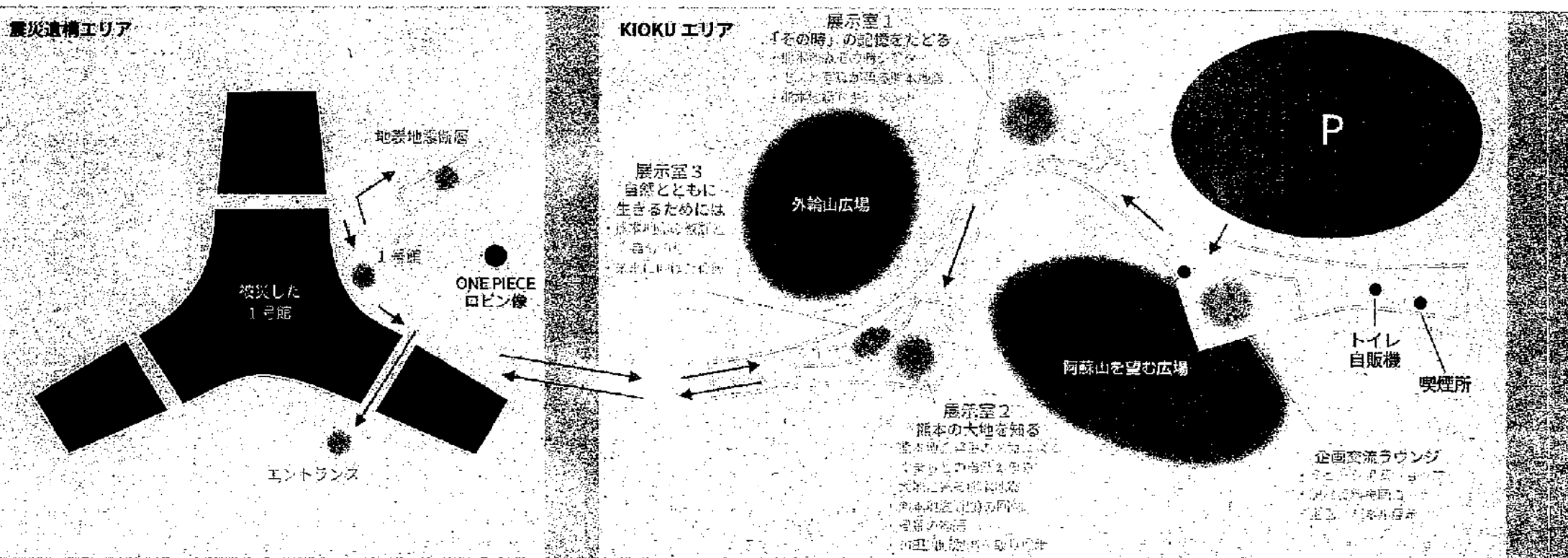


2023年7月15日グランドオープン

熊本地震 震災ミュージアム

KIOKU

観測史上初となる28時間のうちに2度の震度7の揺れが発生した平成28年(2016年)熊本地震。熊本県内では災害関連死を含めて270名以上の死者、20万棟近い建物の被災、阿蘇大橋をはじめとする交通インフラや水・電気などのライフラインの寸断といった、甚大な被害がありました。熊本県では、被災市町村と連携して、地震の記憶や経験、教訓を確実に後世に伝承し、今後いつどこで起こるか分からない大規模地震災害に備えるため、県内に点在する震災遺構等を活用した回廊形式のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の廻廊」を整備しています。今回その中核拠点として、南阿蘇村の旧東海大学阿蘇キャンパス内に新たに体験・展示施設が完成しました。展示やシアター、震災遺構、各種プログラムを通して、熊本地震の被災の様子、その発生メカニズム、そして防災について学び、人と自然との共生のあり方について考えていただく施設です。施設のシンボルネーム「KIOKU(きおく)」は一般公募から選ばれ、熊本地震を追体験し、そこから得たものを記憶して、未来へ語り継がれるようにという願いが込められています。また、くまもとアートポリスプロジェクトを通して設計された柔らかな曲線の屋根が特徴的な建物もKIOKUの魅力の一つです。



見学時の注意事項

- 有料ゾーン(展示室等)をご見学の場合は受付にて観覧料をお支払いの上、首下げ型の入館証をご着用ください。
- 施設内での飲食はご遠慮ください。芝生広場でのご飲食は可能です。ただしごみはお持ち帰りください。
- ペット(盲導犬等を除く)同伴での施設内への入場はできません。また、屋外でもリードを着用ください。
- 展示物は個人利用に限り、一部(シアターを含む各種映像資料)を除いて撮影可能です。ただしフラッシュ撮影やライブ配信、長時間の動画撮影など他のお客様のご迷惑となる行為はご遠慮ください。
- 団体でのご見学の場合は、駐車場確保および混雑防止のため、公式HPより事前申込をお願いします。
- 県内小中高生は、学生証や学校名札、マイナカードなど住所・在籍学校が確認できるものをご提示ください。

- 施設所在 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5343-1
- 開館時間 09:00 ~ 17:00 (最終入館 16:30) ※見学時間: 60 ~ 90 分
- 休館日 毎週月曜(祝日の場合は翌平日が休館)・年末年始
- 駐車場 約 100 台(大型バス含む)
- 観覧料 大人 500 円 / 県外中高生: 400 円 / 県外小学生: 300 円
※県内小中高生は無料
- 公式HP <https://kumamotojishin-museum.com/kioku/>
- 連絡先 TEL: 0967-65-8065 / MAIL: kioku@minamiaso.info



熊本城

～復興に向けて～

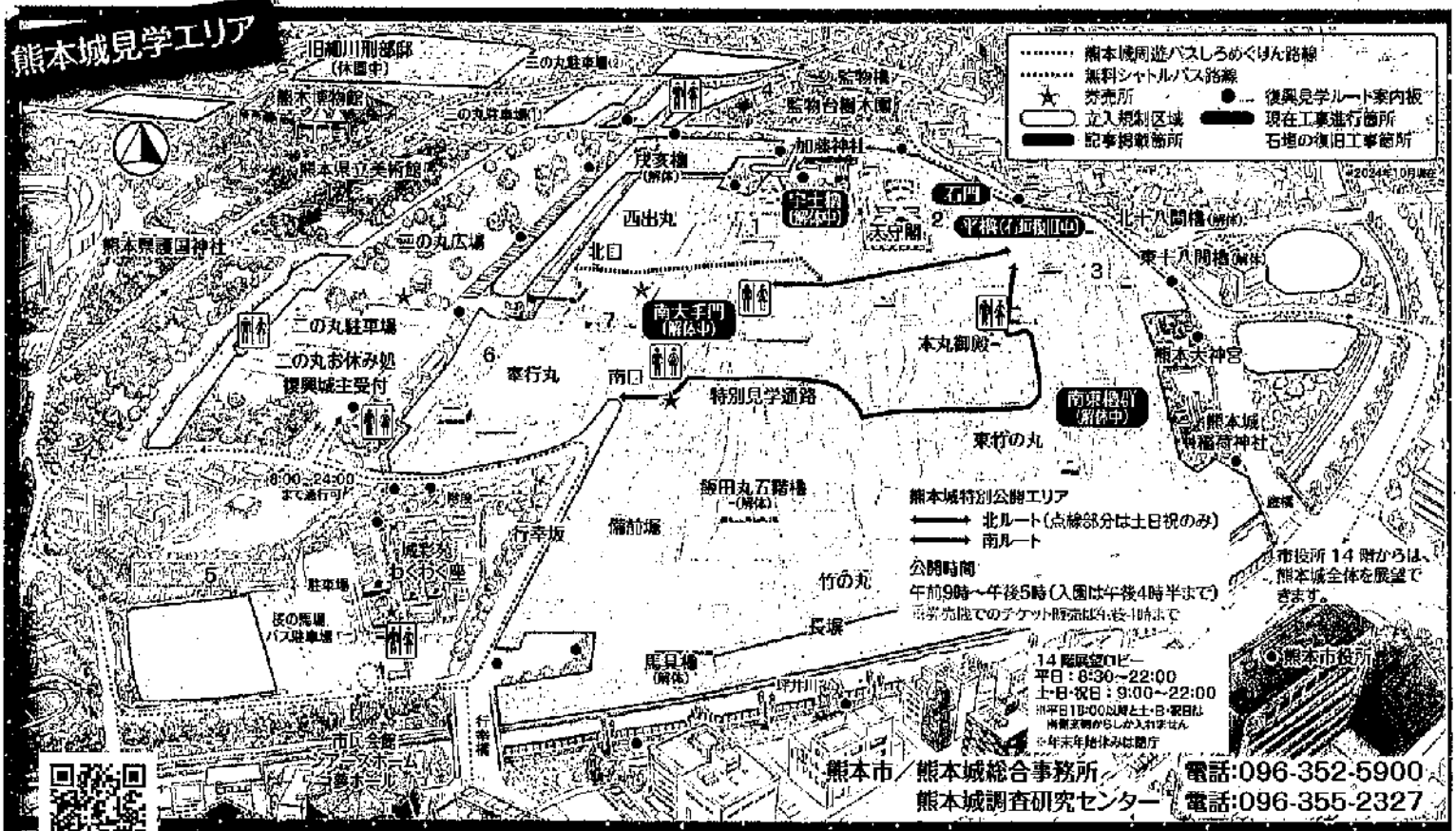
令和6年度

●秋冬号●



・大小天守と石門周辺の発掘現場

熊本城見学エリア



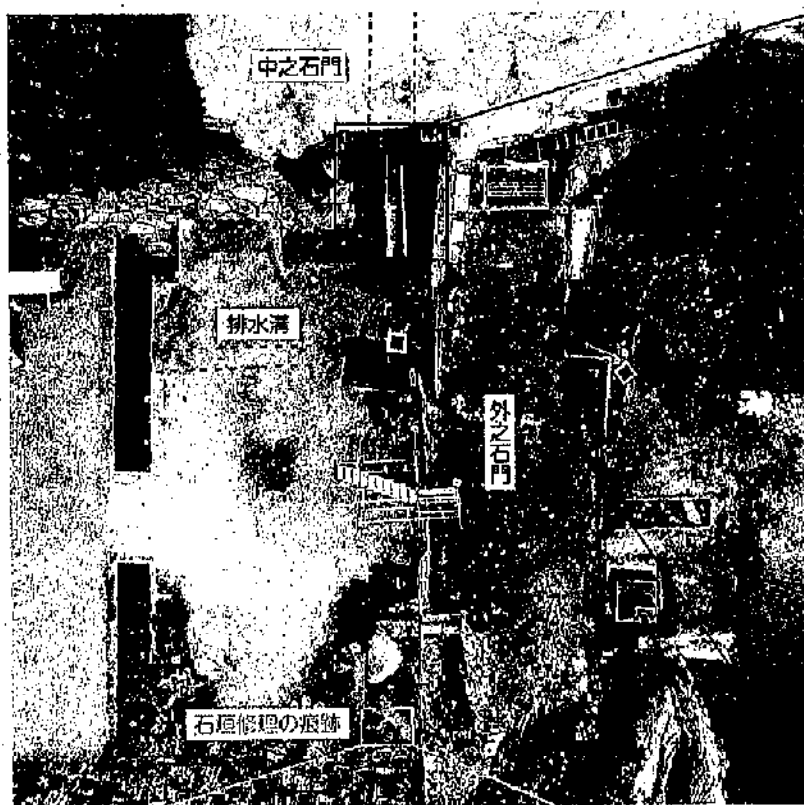
発掘調査で新発見! 石門から延びる排水溝

令和6年(2024)4月から7月にかけて、小天守北東にある石門周辺で、排水経路と周辺石垣の基礎構造を把握するために発掘調査を行いました。

石門は、石垣の下部に造られたトンネル状の施設で、「中之石門」と「外之石門」の2つがあります。中之石門内部の高さは現在の地表から約1.3mと低いこともあり、はっきりとした用途は判明していませんでした。

調査の結果、中之石門内部から延びる石を組んで造られた江戸時代の排水溝が見つかりました。排水溝は、外之石門前で90度曲がって東へ延びています。さらに、中之石門内部の高さは土中に埋まっていた部分を含めると、本来は約1.6mであったことがわかりました。

以上のことから、石門は排水経路と通路の2つの機能を兼ねていたと考えられます。



上空から見た発掘現場(上が南)



中之石門(奥)と調査によって確認した排水溝(中央下)



石門北側にある石垣(右)の修理痕跡



石を組み合わせて造られた排水溝

石垣修理の痕跡

石門北側にある石垣では、修理の痕跡を確認しました。橙色の線は、石垣の前面を約1m幅で掘り込んだ範囲を表しています。

掘り込み内の下部には50cm程の石を据えて、上部には20~30cmの石が多量に敷き詰められていました。これらの石は、修理の際に石垣(写真内右側)が動かないように押さえる役割をしていたものと考えられます。

宇土櫓(五階櫓)の解体が進行中です!

令和4年(2022)10月にスタートした宇土櫓五階櫓の解体保存工事は、素屋根の設置を経て、令和6年(2024)1月に本格的な作業に着手しました。

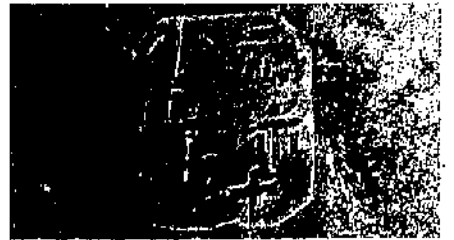
作業は瓦、壁の順に取り外していきます。瓦については一枚一枚調査していくと、中には過去の修理報告書のとおり、江戸時代初期とみられる瓦も確認できました。古い瓦は、傷まないようになるべく「雨水の集まらない」、「乾燥しやすい」上層の東・南・西面や人目に付きやすい1階東側庇および地下1階南側庇に集中して置かれていました。

壁については土壁の構造を調査してから解体し、また壁の中心部にある荒壁は復旧時に再利用ができる可能性があるため、一部を保管しました。壁の解体が進むと軸組みがあらわになり、昭和2年(1927)の修理時に耐震補強用で設置された鉄骨の筋かいが確認できました。

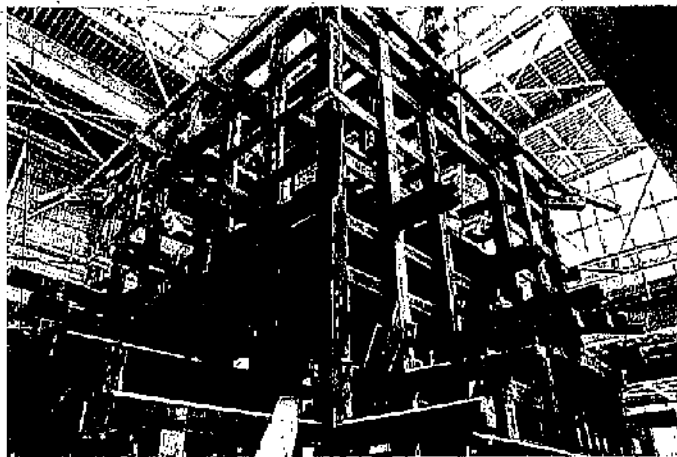
今後は軸組みの状態で過去に行った修理の痕跡調査や復旧時に必要な寸法等の確認を行った後、全ての部材を解体していきます。



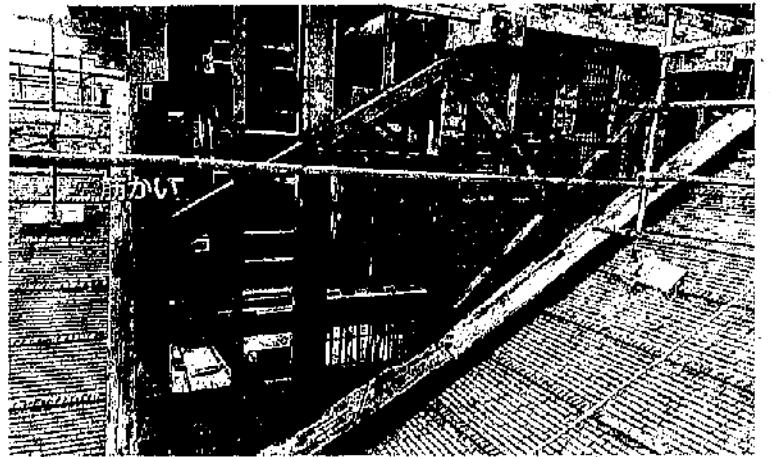
江戸時代初期とみられる瓦(桔梗紋)



瓦に付けられた刻印(元禄十 小山勘)



軸組みがあらわになった宇土櫓(五階櫓)



土壁の解体で見えてきた鉄骨の筋かい

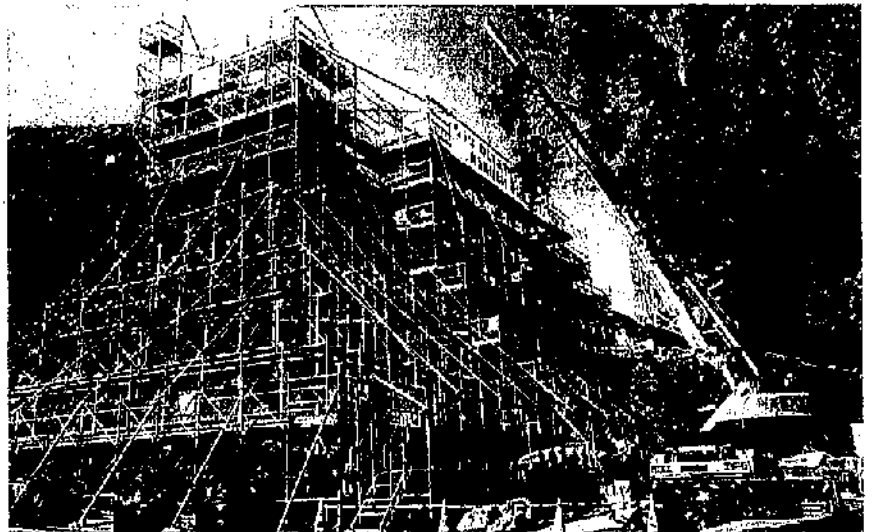
平櫓下石垣の積み直しが始まりました!

令和6年(2024)6月から、国指定重要文化財平櫓の下にある石垣の積み直しを行っています。石垣は高さが約18mと非常に高いもので、平成28年熊本地震の際に、一部が大きく膨らむなどの変形が生じました。この部分を修理するために令和3年度に石垣の一部を解体し、修理方法の検討を経て、積み直し工事が始まりました。

石垣外面の築石は、解体前の写真や図面等を参考に、一つ一つ微調整を繰り返しながら丁寧に積み上げています。また、今後の地震で平櫓や石垣が崩れることがないように、石垣内部を特殊なシートや鉄筋で補強しています。積み直しは、令和7年度に完了する予定です。



微調整を繰り返して石を積み様子



平櫓下石垣の積み直し工事

これからの復旧工事の見どころ — 石垣編 —

令和6年度下半期は、平成28年熊本地震で崩落や膨らみ等の被害を受けた石垣のうち、7か所で復旧に向けた工事を行います（表紙／見学エリア地図の1～7を参照）。

復旧工事は修理が必要な石垣の解体、崩落した石材の回収、現在は崩れていないものの崩落の危険性がある石材の部分的な回収の3種類に分けられます。

石垣の復旧工事の様子は、熊本城周辺の道路や特別公開エリアからご覧になれます。

工事箇所	工事名称	工事期間(予定)
石垣解体	1 宇土櫓続櫓下石垣解体	令和6年8月～令和7年8月
	2 石門北側石垣解体	令和6年9月～令和8年3月
	3 北東櫓群下石垣解体	令和6年12月～令和8年度
崩落石材回収	4 埋門周辺石垣の崩落石材回収	令和6年8月～令和6年12月
	5 国立病院周辺外石垣の崩落石材回収	令和6年8月～令和6年12月
	6 奉行丸西側石垣の崩落石材回収	令和6年9月～令和6年12月
危険石材回収	7 南大手門下石垣の危険石材回収	令和6年10月～令和6年12月



6 崩落した奉行丸西側の石垣

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約578,000㎡

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

※前震での被害を含む

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡(全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡、全体の10.4%)
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



被災直後の成交橋と崩落した石垣

熊本城天守閣企画展示

「熊本城と地形・地質～周辺地形・地質の成り立ちとその利用に迫る～」

会期 11月1日(金)～令和7年(2025)4月

場所 熊本城天守閣(大天守)1階

※熊本城の入園料が必要です

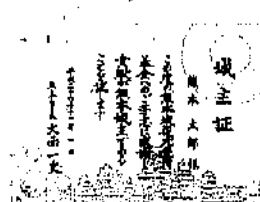
平成28年熊本地震後の復旧過程で行った地質調査や発掘調査の成果から明らかになってきた熊本城周辺の地形・地質の成り立ちを詳しく紹介します。



熊本城 復興城主

熊本城の復興を支援してくださる「熊本城 復興城主」を募集しています。1回につき1万円以上寄附された方に「城主証」「城主手形」をお届けします。また、復興城主受付と天守閣4階の芳名板にてお名前が映し出されます。

詳細は、こちらへ！



熊本博物館収蔵品展

「くまはくコレクション かがやけ!熊本の刀と絵画」

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

会期 10月4日(金)～12月22日(日)

場所 熊本博物館2階 特別展示室1～3

※熊本博物館の入場料が必要です

延寿派や岡田寛派の刀剣、細川藩御用絵師を務めた矢野派や近代熊本画壇を牽引した画家たちの絵画を大公開します。前期と後期で作品を総入れ替えするほか、会期中は多数のイベントを実施予定です!

★本展にあわせて、4館巡拝スタンプラリー(熊本博物館・島田美術館・島原城・玉名市立歴史博物館こころピア)を実施します。詳細は熊本博物館HPをご覧ください。



熊本城見学の前に立ち寄りたい!

熊本城の魅力を体感できるミュージアム

熊本城の魅力を多彩なプログラムで発信しています。江戸時代と震災前の熊本城の姿を再現映像で臨場感たっぷりに体感できる大迫力の「熊本城VR」をはじめ、「熊本城被災・復旧プロジェクト」や「被災直後の熊本城内部の映像」など、必見情報が盛り沢山!お城見学とあわせてぜひご覧ください。

料金:入館料 高校生以上 300円、小・中学生 100円

お得 共通入園券がオススメです!

2館共通入園券(熊本城・わくわく座)
……高校生以上850円、小・中学生300円
3館共通入園券(熊本城・わくわく座・熊本博物館)
……高校生以上1,100円、小・中学生400円

